

### 1.種の解説

腐生菌。エウロチウム目の多くはカビで、本種を含む少数の種が比較的大きな子嚢果を形成し、キノコとみなされる形態的特徴をもつ。子嚢果はタブノキなどの幹に樹皮を破って発生。初めは内外2層の被膜に覆われ、ドングリの殻斗様、のち外被膜は破れ、薄い内被膜に包まれた上部の刷毛状の基本体が柱状に伸びる。高さ1~2 cm。子嚢は基本体中に不規則に散らばって形成され、子嚢胞子を生じたのち子嚢膜は消失する。子嚢胞子は楕円形で、らせん状に並ぶ隆起がある。

### 2.分布

国外では北アメリカ、南アメリカ、ボルネオ、スリランカに分布する。国内では本州暖帯域以南に分布し、県内では東部、中部、西部、伊豆で確認している。

### 3.生育環境

タブ、ツブラジイ、イヌビワなどの樹皮、腐朽部上に生育する。県内ではウワミズザクラの立枯木にも生育していた。1970年代には、暖温帯の丘陵地で確認されていたが、現在確認されているのは、冷温帯付近から冷温帯のやや湿度の高い広葉樹林内に生育する老木の樹幹下部や倒木である。

### 4.生育状況

枯死木の樹皮に小さい子嚢果を形成しているが、各生育地の発生木はごく少ない。今後新しい生育場所を確保できなければ、絶滅が危惧される。

### 5.減少の主要因と脅威

本県における生育地は限られ、子実体の発生が認められる枯死木はきわめて少ないが、その要因は不明である(99)。

### 6.保護対策

生育地の林の状況と環境を現状のまま維持・保全する必要がある。

### 7.特記事項

特になし。

### 8.主な文献

池田良幸(2013) 新版 北陸のきのこ図鑑. 橋本確文堂, 金沢, 396 pp.

今関六也・本郷次雄 編(1989) 原色日本新菌類図鑑(Ⅱ). 保育社, 大阪, 402 pp.

今関六也・大谷吉雄・本郷次雄 編(2011) 山溪カラー名鑑 増補改訂新版 日本のきのこ. 山と溪谷社, 東京, 648 pp.

勝本 謙(2010) 日本産菌類集覧. 日本菌学会関東支部, 船橋, 1177 pp.

武藤治彦(2007) 静岡木の子の会探索会で採集されたきのこ—静岡県内—(1990~2006). 静岡木の子の会会報, (7): 14-25

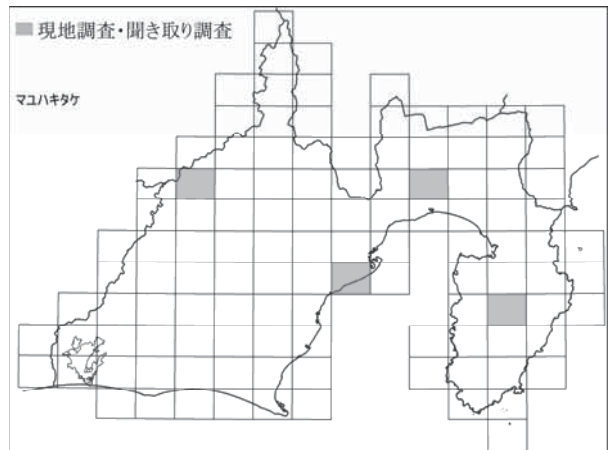
### 9.標本

富士市産、伊豆市産：ふじのくに地球環境史ミュージアム

(小倉辰彦)



富士市 2016年4月4日 小倉辰彦



タルゼッタ カティヌス *Tarzetta catinus* (Hokmsk.) Korf & J. K. Rogers 1971

ピロネマキン科 Pyronemataceae

[静岡県カテゴリー 情報不足 (DD) (要件 - )] [環境省カテゴリー なし]

### 1.種の解説

腐生菌。子実体は林内（ことにブナ林）の地上に発生する。子囊盤は碗形で、径2～5 cm、淡クリーム色から淡黄土色。縁には鋸歯状の切れ込みがある。外側は白色の短毛に覆われ、ピロード状。無柄もしくは短くて太い柄がある。子嚢胞子は楕円形、平滑である。

### 2.分布

国外ではヨーロッパ、アメリカに、国内における詳細な分布地は不明であるが、少なくとも本州に分布する。県内では伊豆、東部、中部、西部で確認している。

### 3.生育環境

県内では冷温帯上部でブナ、ミズナラなどが生育する河岸林、溪畔林の砂礫地に生育する。

### 4.生育状況

現在生育を確認している場所は原生的自然林の林床であるが、限られる。

### 5.減少の主要因と脅威

冷温帯上部のブナ・ミズナラ林内の砂礫地で多湿な場所は、河岸林などに多い。樹木の伐採（11）などによる、生育適地の減少が要因と考えられる。

### 6.保護対策

生育地の自然環境の保持が必要である。

### 7.特記事項

特になし。

### 8.主な文献

本郷次雄・上田俊穂（2006）新装版山溪フィールドブックス7きのこ．山と溪谷社，東京，384 pp.

今関六也・大谷吉雄・本郷次雄 編（2011）山溪カラー名鑑 増補改訂新版 日本のきのこ．山と溪谷社，東京，648 pp.

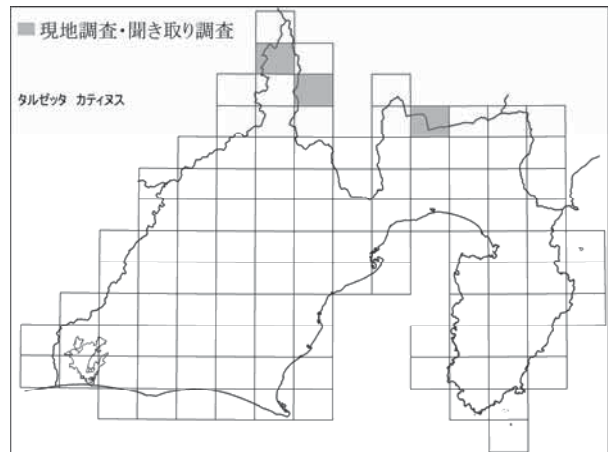
勝本 謙（2010）日本産菌類集覧．日本菌学会関東支部，船橋，1177 pp.

### 9.標本

富士宮市産、静岡市産：ふじのくに地球環境史ミュージアム



静岡市 2015年7月20日 池ヶ谷のり子



(池ヶ谷のり子)

### 1.種の解説

外生菌根菌。子実体は夏から秋に、広葉樹林内地上に発生。大型。傘表面はクリーム色。淡黄～淡褐色で薄い膜質の外被膜の破片が付着し、縁部につばの残片が垂れ下がる。ひだは黄土色。柄の上部には消失しやすすい膜質のつばがあり、基部がカブラ状に著しくふくらむのが特徴。つばは欠く。肉は黄白色で傷をつけると緩やかに赤褐色に変わる。全体に強い臭気がある。担子胞子は類球形から広卵形である。

### 2.分布

国外では中国、マレーシアに分布し、国内では関東以西に分布する。県内では伊豆、東部、中部に分布する。

### 3.生育環境

宿主樹種は、主にブナ科 (ブナ、ミズナラ、コナラ、アベマキ、コジイ、マテバシイなど)、ときにカバノキ科シデ属だが、県内では主に里山でシイなどと菌根共生している。

### 4.生育状況

宿主樹種の有無だけでなく、それ以外の生育要因が限られるためか、子実体の発生地は狭く限られていて、発生量も少ない。1990年代には伊豆地域においても発生が確認されていたが、現在は確認されていない。

### 5.減少の主要因と脅威

スギ、ヒノキの植林化による生育環境であるブナ科広葉樹林の減少 (11) が挙げられる。ナラ枯れの影響もあり、生育に適した広葉樹林が減少すると絶滅する危険性がある。

### 6.保護対策

現在の生育環境に樹木伐採などの手を加えないよう、現状の保持が必要である。里山のまとまった広葉樹林を残し、維持、管理していく必要がある。

### 7.特記事項

特になし。

### 8.主な文献

池田良幸 (2013) 新版 北陸のきのこ図鑑. 橋本確文堂, 金沢, 396 pp.

今関六也・本郷次雄 編 (1987) 原色日本新菌類図鑑 (I). 保育社, 大阪, 325 pp.

今関六也・大谷吉雄・本郷次雄編 (2011) 山溪カラー名鑑 増補改訂新版 日本のきのこ. 山と溪谷社, 東京, 648 pp.

勝本 謙 (2010) 日本産菌類集覧. 日本菌学会関東支部, 船橋, 1177 pp.

### 9.標本

なし。



富士宮市 2014年8月25日 小倉辰彦



(小倉辰彦)

## アケボノタケ *Porpolomopsis calyptiformis* (Berk.) Bresinsky 2008

ヌメリガサ科 Hygrophoraceae

[静岡県カテゴリー 情報不足 (DD) (要件 - )] [環境省カテゴリー なし]

### 1.種の解説

腐生菌。子実体は夏から秋に、草地、森林、竹林などの地上に発生。傘は円錐形から平らに開いたのちも中央に円錐状の中丘がある。表面は淡いバラ～ライラック色、繊維状でほとんど粘性はない。成熟すると縁部に放射状に深く裂ける。ひだは幅広くやや疎。柄は6～15 cm、中空、多少縦線がありしばしばねじれる。傘とほぼ同色から白色。担子胞子は楕円形である。

### 2.分布

国外ではヨーロッパ、北アジア、北アメリカに分布する。国内の分布地の詳細は不明であるが、県内では中部で確認している。

### 3.生育環境

県内で確認している生育地は、人間の活動のほとんどない林内草地である。

### 4.生育状況

現在の確認地は、中部の一ヶ所である。

### 5.減少の主要因と脅威

1970年代初期には、丘陵地での確認があった。今回の確認例では、施肥の行われていない天然の草地に発生しており、人間の活動が少ない環境を好む可能性がある(71)。

### 6.保護対策

現在の生育地の自然環境を保全する必要がある。

### 7.特記事項

施肥の行われていない天然の草地での発生が多いといわれる。

### 8.主な文献

本郷次雄 監修 (2006) 新装版 山溪フィールドブック ス7きのこ. 山と溪谷社, 東京, 383 pp.

池田良幸 (2013) 新版 北陸のきのこ図鑑. 橋本確文堂, 金沢, 396 pp.

今関六也・本郷次雄 編 (1987) 原色日本新菌類図鑑 (I). 保育社, 大阪, 325 pp.

伊藤誠哉 (1959) 日本菌類誌 第二巻・第五号. 養賢堂, 東京, 658 pp.

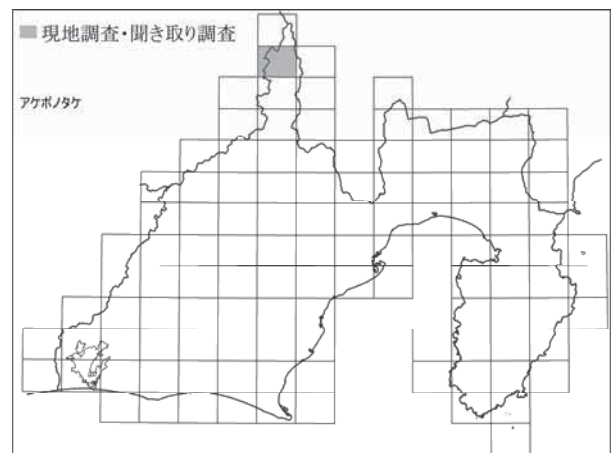
勝本 謙 (2010) 日本産菌類集覧. 日本菌学会関東支部, 船橋, 1177 pp.

### 9.標本

静岡市産：ふじのくに地球環境史ミュージアム



静岡市 2014年8月24日 池ヶ谷のり子



(池ヶ谷のり子)

# カバイロオオホウライタケ *Marasmius aurantioferrugineus* Hongo 1965

ホウライタケ科 Marasmiaceae

[静岡県カテゴリー 情報不足 (DD) (要件 - )] [環境省カテゴリー なし]

## 1.種の解説

腐生菌。子実体は夏から秋に、広葉樹林、カラマツ林などの落葉上に発生。傘は径3~8 cmで、ほぼ平らに開く。表面は粘性がなく、橙褐色で放射状の小じわがある。ひだは白色からクリーム色で疎。柄は表面が白色の繊維状で強靱である。肉は白色、薄くて強靱。担子胞子は紡錘状長楕円形である。

## 2.分布

日本固有種で、国内では本州に、県内では中部に分布する。

## 3.生育環境

県内では冷温帯で、湿度が保たれやすい河岸の広葉樹の落葉を分解して生育する。

## 4.生育状況

現在確認しているのは、中部の河岸林及びその周辺の、湿度の保たれる落葉上であるが、生育場所は限られ、子実体の発生量も多くない。

## 5.減少の主要因と脅威

現在生育地の環境は安定しているが、道路建設(24)、開発など(23)が行われると、生育地が減少する可能性が非常に高い。

## 6.保護対策

現在の生育環境に手を加えないよう保護が必要である。

## 7.特記事項

特になし。

## 8.主な文献

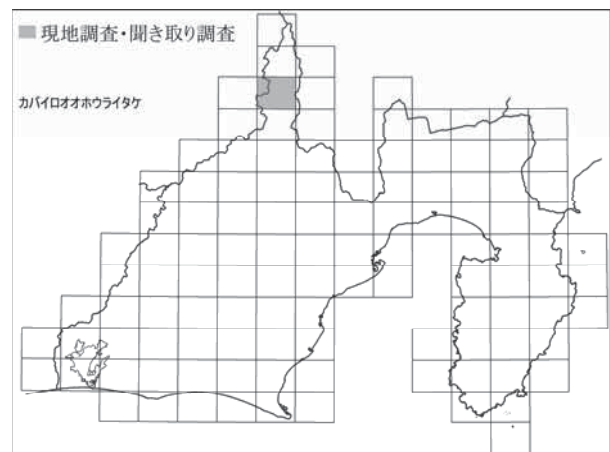
- 青木 実・日本きのこ同好会 名部みち代 編 (2008) 日本きのこ図版 第1巻. 日本きのこ同好会 2, 神戸, 815 pp.
- 細矢 剛・埋橋志穂美・保坂健太郎・工藤伸一 (2016) 日本産固有菌類目録の作成に向けて生物多様性データベースを利用した日本固有のきのこリスト作成の試み. 日菌報, 57: 77-84
- 池田良幸 (2013) 新版 北陸のきのこ図鑑. 橋本確文堂, 金沢, 396 pp.
- 今関六也・本郷次雄 編 (1987) 原色日本新菌類図鑑 (I). 保育社, 大阪, 325 pp.
- 今関六也・大谷吉雄・本郷次雄 編 (2011) 山溪カラー名鑑 増補改訂新版 日本のきのこ. 山と溪谷社, 東京, 648 pp.
- 勝本 謙 (2010) 日本産菌類集覧. 日本菌学会関東支部, 船橋, 177 pp.
- 工藤伸一 (2017) 青森県産きのこ図鑑. アクセス二十一出版, 青森, 535 pp.

## 9.標本

静岡市産: ふじのくに地球環境史ミュージアム



静岡市 2015年9月13日 小倉辰彦



(小倉辰彦)

### 1.種の解説

腐生菌。子実体は初夏から秋に、広葉樹の腐朽木上に発生。傘は釣鐘～まんじゅう形のちほとんど平ら、さらに中央はややへこむ。表面は繊維状で黄土色から暗褐色の地に大小の白～汚黄土色の斑紋が不規則に点在する。乾燥すると周辺部に不規則な条線をあらわす。ひだは離生して密、白色のち肉紅色になる。柄は上下同大または上部に向かって細くなり中実、淡黄色で平滑。担子胞子は類球形から広楕円形である。

### 2.分布

国外では、タイに変種が分布する。国内では本州、九州で確認されており、県内では東部、西部で確認している。

### 3.生育環境

暖温帯の林内で、腐朽した広葉樹に生育する。

### 4.生育状況

広葉樹の倒木に生育するが、かなり腐朽が進んだ白色腐朽部に子実体が発生することが多い。発生が稀であることに加えて、生育している腐朽木が短期間で朽ちてしまうため確認例が少ない。古くなったシイタケのホダ木に発生することが多い。

### 5.減少の主要因と脅威

スギ、ヒノキの植林化に伴う雑木林中の広葉樹腐朽木の減少 (11) に加えて、シイタケ原木栽培の減少に伴う廃ホダ木の減少 (71) により、生育環境が悪化している。

### 6.保護対策

生育地の林の状況と環境を現状のまま維持・保全する必要がある。

### 7.特記事項

特になし。

### 8.主な文献

Courtecuisse R., M. Uchida, C. Andary & T. Hongo (1991) A new Asiatic species of *Pluteus* (Basidiomycotina, Pluteales) with dotted pileus, and its variations. *Trans. Mycol. Soc. Japan*, 32: 113–124

池田良幸 (2013) 新版 北陸のきのこ図鑑. 橋本確文堂, 金沢, 396 pp.

今関六也・大谷吉雄・本郷次雄 編 (2011) 山溪カラー名鑑 増補改訂新版 日本のきのこ. 山と溪谷社, 東京, 648 pp.

勝本 謙 (2010) 日本産菌類集覧. 日本菌学会関東支部, 船橋, 1177 pp.

武藤治彦 (2007) 静岡木の子の会探索会で採集されたきのこ—静岡県内—(1990～2006). 静岡木の子の会会報, (7): 14–25

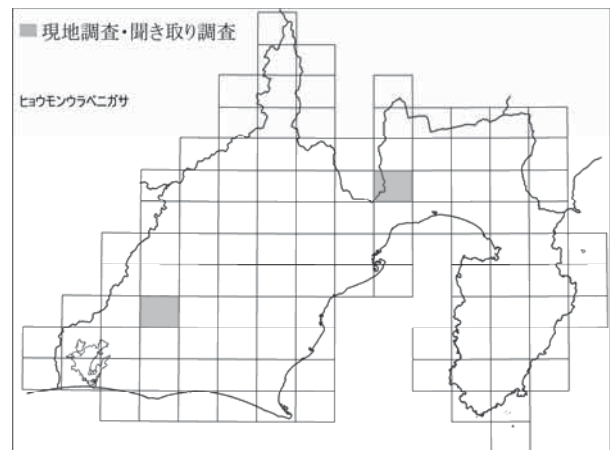
城川四郎 (2017) 検証キノコ新図鑑. 筑波書房, 東京, 250 pp.

### 9.標本

なし。



富士宮市 2005年6月20日 小倉辰彦



(小倉辰彦)

# ヒダホテイタケ *Leucocortinarius bulbiger* (Alb. & Schwein.) Singer 1945

キシメジ科 Tricholomataceae

[静岡県カテゴリー 情報不足 (DD) (要件 - )] [環境省カテゴリー なし]

## 1.種の解説

外生菌根菌(?)。子実体は秋に、針葉樹林内の地上に発生。傘は中型からやや大型、半球形からほとんど平らに開く。表面は淡帯褐色から粘土色で、白色の被膜の残片をつける。ひだは白色のちクリーム色で密。柄は類白色、基部は扁平な塊茎状にふくらむ。幼時傘と柄の間に、フウセンタケ属のようなクモの巣膜がある。胞子紋はクリーム色。担子胞子は卵形から広楕円形で平滑である。

## 2.分布

国外ではヨーロッパ、国内では北海道、本州の亜高山帯に分布する。県内では東部で確認している。

## 3.生育環境

県内では亜高山帯の原生的自然林内で、シラビソなどモミ属樹木と菌根共生して生育していると考えられる。

## 4.生育状況

県内で現在生育が確認されているのは富士山で、他地域では未確認である。富士山においても子実体の発生確認は少ない。

## 5.減少の主要因と脅威

天然林の伐採(11)などによる生育環境の悪化が考えられるが不明である。

## 6.保護対策

登山道以外の林床の踏みつけを規制して、生育地の自然環境を保持する必要があると考える。

## 7.特記事項

特になし。

## 8.主な文献

本郷次雄 監修 (2006) 新装版 山溪フィールドブックス7 きのこと。山と溪谷社, 東京, 384 pp.

伊藤誠哉 (1959) 日本菌類誌 第二巻・第五号. 養賢堂, 東京, 658 pp.

勝本 謙 (2010) 日本産菌類集覧. 日本菌学会関東支部, 船橋, 1177 pp.

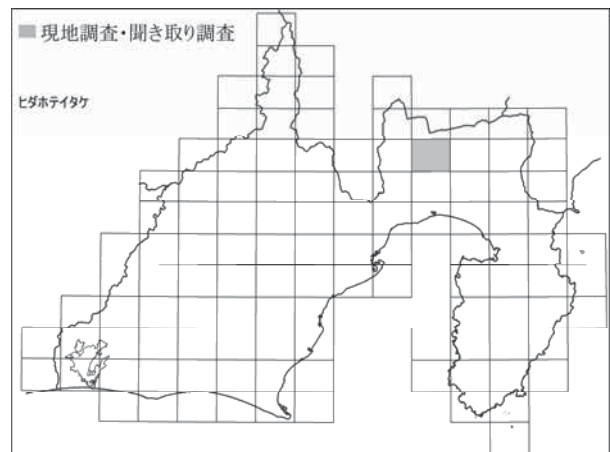
柴田 尚 (2006) 森のきのこたち. 八坂書房, 東京, 206 pp.

## 9.標本

富士宮市産、小山町産：ふじのくに地球環境史ミュージアム



小山町 2015年9月29日 池ヶ谷のり子



(池ヶ谷のり子)

ウラムラサキシメジ *Tricholosporum porphyrophyllum* (S. Imai)

Guzman ex T. J. Baroni 1982

キシメジ科 Tricholomataceae

静岡県カテゴリー 情報不足 (DD) (要件 - ) ] [環境省カテゴリー なし]

### 1.種の解説

腐生菌。子実体は夏から秋に、広葉樹林内落葉上に発生。傘はまんじゅう形から平らに開く。湿時弱い粘性がある。表面は紫色を帯びた濃褐色から明褐色。ひだは密で、鮮やかな紫色から老時黄褐色となる。ひだは傷がつくとゆっくり褐変する。柄は帯黄土白色から黄褐色で、上下同径から基部やや球根状となる。肉は類白色から類黄白色。孢子紋は白色。担子孢子は十字形、角形である。

### 2.分布

国外については不明。国内では北海道、本州で確認されている。県内では東部、伊豆に分布する。

### 3.生育環境

県内では、比較的湿度のえられる広葉樹林内落葉上に生育していた。林道脇、公園樹下の落葉層に子実体の発生がみられることがある。

### 4.生育状況

ひだが鮮やかな紫色で特徴がある子実体だが、県内での発生確認は少ない。発生が稀で、生育状況には不明な点が多い。

### 5.減少の主要因と脅威

植林化による生育に適した広葉樹林の減少が考えられる (11)。

### 6.保護対策

継続調査と現生育地の保全が必要である。

### 7.特記事項

特になし。

### 8.主な文献

青木 実・日本きのこ同好会 名部みち代 編 (2008) 日本きのこ図版 第1巻. 日本きのこ同好会 2, 神戸, 815 pp.

本郷次雄 (1988) 日本産キシメジ属. 日菌報, (29): 441-447

池田良幸 (2013) 新版 北陸のきのこ図鑑. 橋本確文堂, 金沢, 396 pp.

伊藤誠哉 (1959) 日本菌類誌 第二巻・第五号. 養賢堂, 東京, 658 pp.

勝本 謙 (2010) 日本産菌類集覧. 日本菌学会関東支部, 船橋, 1177 pp.

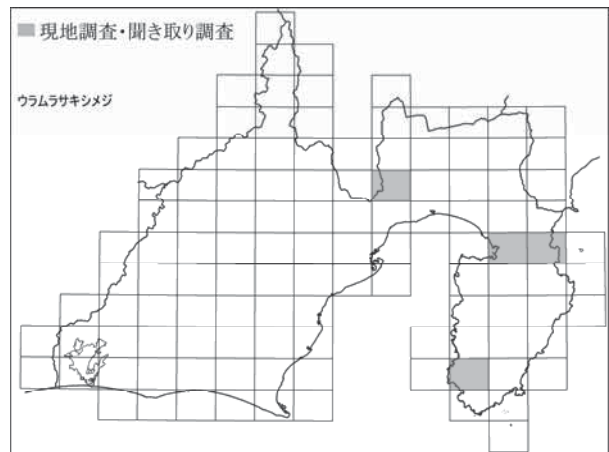
幼菌の会 編 (2001) カラー版 きのこ図鑑. 家の光協会, 東京, 35 pp.

### 9.標本

南伊豆町産：ふじのくに地球環境史ミュージアム



南伊豆町 2015年10月3日 小倉辰彦



(小倉辰彦)



## 1. 種の解説

外生菌根菌。子実体は夏に、林内地上に発生。傘はまんじゅう形で、縁部に白色膜質の内被膜破片を付着する。表面は粘性があり、黄褐色からニッケイ色で多少鱗片状。子実層托は管孔で、孔口は白色のち紅紫褐色となる。柄は細長く、表面は白～淡黄褐色で縦長の隆起した網目があり、湿時粘性がある。肉は白色、強い香りと苦味がある。担子胞子は広紡錘形で表面はいぼ状である。オオヤシャイグチは全体に緑色を帯びる。

## 2. 分布

国内では関東以西に、県内では東部、西部に分布する。

## 3. 生育環境

里山のシイ・カシ林、アカマツ・コナラ林に生育する。

## 4. 生育状況

発生場所が局地的で、子実体の発生量は少ない。2000年以前には中部においても発生があったが、現在は未確認である。

## 5. 減少の主要因と脅威

スギ・ヒノキの植林化に伴い、生育地である広葉樹林が減少している(11)。生育環境が限定されるためか各分布地は狭く環境の変化や自然災害(55)などで著しく減少する危険がある。

## 6. 保護対策

生育地の林の状態と環境を、現状のまま維持・保全する必要がある。里山でまとまった広葉樹林を残し、維持、管理していく必要がある。

## 7. 特記事項

特になし。

## 8. 主な文献

青木 実・日本きのこ同好会 名部みち代 編(2008)

日本きのこ図版 第5巻. 日本きのこ同好会 2,

神戸, 795 pp.

池田良幸(2013) 新版 北陸のきのこ図鑑. 橋本確文堂, 金沢, 396 pp.

今関六也・大谷吉雄・本郷次雄 編(2011) 山溪カラー名鑑 増補改訂新版 日本のきのこ. 山と溪谷社, 東京, 648 pp.

今関六也・本郷次雄 編(1987) 原色日本新菌類図鑑 (I). 保育社, 大阪, 325 pp.

伊藤誠哉(1959) 日本菌類誌 2 (5). 養賢堂, 東京, 658 pp.

勝本 謙(2010) 日本産菌類集覧. 日本菌学会関東支部, 船橋, 1177 pp.

武藤治彦(2007) 静岡木の子の会探索会で採集されたきのこ—静岡県内—(1990~2006). 静岡木の子の会会報, (7): 14-25

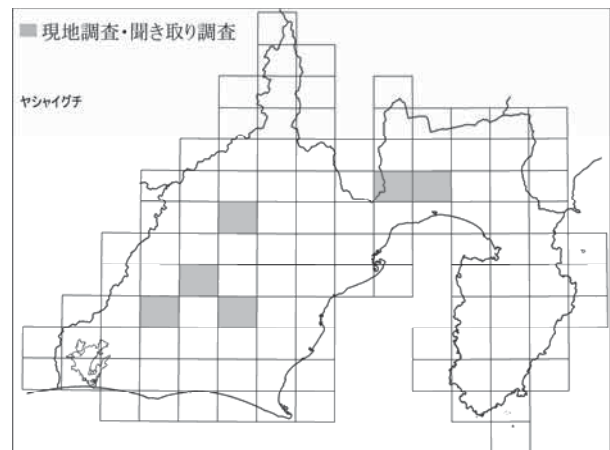
武藤治彦(2010) 静岡木の子の会の探索会における採集リスト(2007~2009). 静岡木の子の会会報, (8): 9-28

## 9. 標本

森町産: ふじのくに地球環境史ミュージアム



©2020 T.Ogura  
富士宮市 2004年7月13日 小倉辰彦



(小倉辰彦)

### 1.種の解説

外生菌根菌。子実体は夏から秋に、コナラ・クヌギ林内地上に発生。傘は中型から大型。半球形から平らな丸山形に開く。表面は明褐色で、ビロード状。湿時やや粘性がある。管孔は淡黄色のちオリーブ色を帯びる。柄は淡黄色から帯褐淡黄色。網目はなく、基部に黄色の菌糸がある。中実。肉は淡黄色で、切断面は青変せず、しだいに濃い黄色になる。担子胞子は円柱状類紡錘形である。

### 2.分布

国内では本州に分布する。県内では中部、西部で確認している。

### 3.生育環境

県内では暖温帯の比較的湿度のえられる林床で、コナラなどと外生菌根を形成して生育している。

### 4.生育状況

生育確認場所は県内の数ヶ所で、発生場所は限られるようで、発生量も少ない。

### 5.減少の主要因と脅威

里山の雑木林の伐採による宿主樹木の減少及び生育環境の悪化が考えられる(11)。ナラ枯れによる生育地の宿主樹木の減少(71)の可能性もある。

### 6.保護対策

現在の生育地の自然環境を保持する必要がある。

### 7.特記事項

滋賀県内のコナラ・クヌギ林以外からはほとんど発生報告がないとのことだが、原因は不明である。

### 8.主な文献

今関六也・本郷次雄 編(1989) 原色日本新菌類図鑑(Ⅱ). 保育社, 大阪, 402 pp.

勝本 謙(2010) 日本産菌類集覧. 日本菌学会関東支部, 船橋, 1177 pp.

武藤治彦(2007) 静岡木の子の会探索会で採集されたきのこ—静岡県内—(1990~2006). 静岡木の子の会会報, (7): 14-25

武藤治彦(2013) 静岡木の子の会探索会における採集リスト(2010~2012). 静岡木の子の会会報, (9): 10-30

幼菌の会 編(2001) カラー版きのこ図鑑. 家の光協会, 東京, 335 pp.

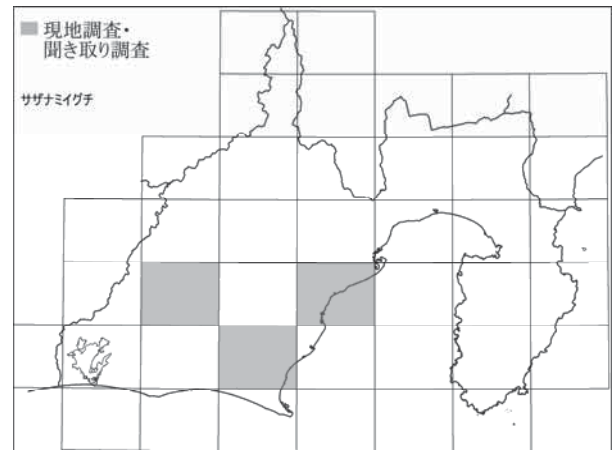
### 9.標本

静岡市産、浜松市産：ふじのくに地球環境史ミュージアム

(池ヶ谷のり子)



静岡市 2016年10月1日 池ヶ谷のり子



### 1.種の解説

外生菌根菌。子実体は夏から秋に、シイ林、コナラ林などの地上に発生。傘は小型、まんじゅう形からほぼ平らに開く。表面はゼラチン様の粘性物質に覆われ、灰オリーブ色からオリーブ褐色。子実層托は管孔で、類白色のち淡黄褐色。柄は2.5~6 cm、白色で、ゼラチン様粘性物質で覆われる。表面には傘と同色の細点が散在する。肉は白色。胞子紋は金茶色。担子胞子は類円柱形から円柱状紡錘形である。

### 2.分布

国外では中央アフリカ (コンゴ)、東南アジアに、国内では東海以西 (?) に分布する。県内では中部で確認している。

### 3.生育環境

暖温帯の比較的明るいアカマツ・コナラ林の林床で、菌根共生して生育している。

### 4.生育状況

生育確認場所は現在一ヶ所で、発生回数も量も少ない。

### 5.減少の主要因と脅威

里山のブナ科樹種の伐採 (11) による宿主樹木の減少は本種減少の要因となる。本種の場合、それ以外の生育環境の変化も重要になると考えられるが、痩せ地の比較的明るい林内に生育しており、管理放棄による林床の富栄養化 (53) の可能性がある。

### 6.保護対策

現在の生育地の雑木伐採などを極力避けて、自然環境を保持することが必要である。

### 7.特記事項

特になし。

### 8.主な文献

本郷次雄 監修 (2006) 新装版 山溪フィールドブックス7きのこ. 山と溪谷社, 東京, 384 pp.

今関六也・本郷次雄 編 (1989) 原色日本新菌類図鑑 (II). 保育社, 大阪, 402 pp.

勝本 謙 (2010) 日本産菌類集覧. 日本菌学会関東支部, 東京, 1177 pp.

### 9.標本

静岡市産: ふじのくに地球環境史ミュージアム

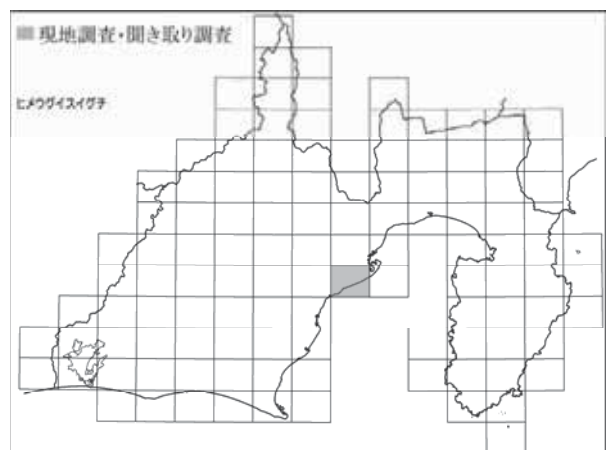


©2020 N.Ikegaya



©2020 N.Ikegaya

静岡市 2016年10月 池ヶ谷のり子



(池ヶ谷のり子)

### 1.種の解説

外生菌根菌。子実体は夏から秋に、亜高山帯針葉樹林内地上に発生。傘はまんじゅう形から逆円錐形になる。表面は茶褐色から赤褐色で、NH<sub>3</sub>で濃青色に変色する。ひだは鮮黄色のちオリーブ褐色、柄に長く垂生する。柄は淡黄色の地に褐色の微鱗片を密生し、上部にひだに接続する縦条がある。肉は白色、NH<sub>3</sub>で青変するが、傷時の変色はない。担子胞子は紡錘形である。キヒダタケは主に冷温帯以下でブナ科樹木下に生育し、肉はNH<sub>3</sub>で汚紫色に変色する。

### 2.分布

国外ではヨーロッパ、北アジアに分布する。国内では本州に、県内では中部に分布する。

### 3.生育環境

亜高山帯の尾根部分などの原生的自然林で、コメツガなどと菌根共生して生育している。

### 4.生育状況

中部の亜高山帯針葉樹林において生育を確認しているが、生育地は限られている。富士山では現在未確認である。

### 5.減少の主要因と脅威

尾根などの森林伐採による天然林の減少による宿主樹木の減少及び生育環境の悪化が考えられる(11)。場所によってはシカ食害を受けたコメツガ稚樹の枯れ木があり、将来的に影響を受ける可能性がある(52-1)。

### 6.保護対策

現在の生育地の自然環境を維持する必要がある。

### 7.特記事項

日本での新産確認は1995年で、富士山で過去に生育していたかどうかは不明である。

### 8.主な文献

池田良幸(2013) 新版 北陸のきのこ図鑑. 橋本確文堂, 金沢, 396 pp.

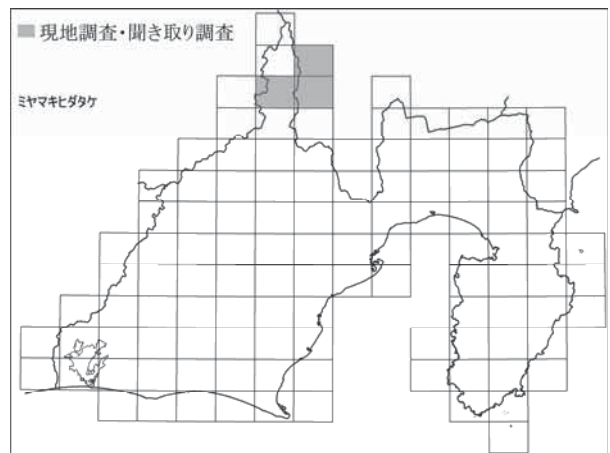
勝本 謙(2010) 日本産菌類集覧. 日本菌学会関東支部, 船橋, 1177 pp.

### 9.標本

静岡市産: ふじのくに地球環境史ミュージアム



静岡市 2014年8月16日 小倉辰彦



(池ヶ谷のり子)

### 1.種の解説

外生菌根菌。子実体は春と秋にクロマツ林地に発生。半地下生、卵形から扁球形で径 1.5~3 cm、白色から黄褐色のち赤褐色となる。手でこすると淡赤褐色に変色する。表面は菌糸束に覆われる。グレバは不規則な迷路状小腔室をなし、初め白色しだいに黄土色から淡褐色になる。特有の芳香がある。担子胞子は長楕円形、淡褐色を帯びる。

### 2.分布

北半球に分布する。国内では、本州、九州に分布する。県内では中部、西部に分布する。

### 3.生育環境

クロマツと菌根共生し、主に海岸のクロマツ林の砂地に生育する。

### 4.生育状況

県内の各地海岸クロマツ林の砂地では、ショウロはふつうに産し、食用とされていた。しかし林床の松葉掻きが減り、松葉が厚く堆積した 1960 年頃より、マツ枯れ被害とともに子実体の発生量は激減した。炭の埋設効果で一時的に復活したが、埋設を止めると発生量が減った。今では森林整備箇所以外では稀にしか見られない。

### 5.減少の主要因と脅威

マツ枯れによる宿主樹木のクロマツの減少 (71) がある。加えて生活の変化などにより松葉掻きが減って松葉が堆積することにより林床が富栄養化し、貧栄養地を好むショウロが生育できなくなった (53) ことが要因として挙げられる。

### 6.保護対策

現生育地において、林床の松葉掻きなどの保育整備をすることが必要である。宿主樹木の減少をくい止めるために抵抗性マツの植栽も有効であると考えられる。

### 7.特記事項

特になし。

### 8.主な文献

- 池田良幸 (2013) 新版 北陸のきのこ図鑑. 橋本確文堂, 金沢, 396 pp.
- 今関六也・本郷次雄監修 小川眞 編 (1987) マイフルール・シリーズ 見る・採る・食べるきのこカラー図鑑. 講談社, 東京, 254 pp.
- 今関六也・本郷次雄 編 (1989) 原色日本新菌類図鑑 (II). 保育社, 大阪, 402 pp.
- 今関六也・大谷吉雄・本郷次雄 編 (2011) 山溪カラー名鑑 増補改訂新版 日本のきのこ. 山と溪谷社, 東京, 648 pp.
- 伊藤誠哉 (1955) 日本菌類誌 2 (5). 養賢堂, 東京, 658 pp.
- 勝本 謙 (2010) 日本産菌類集覧. 日本菌学会関東支部, 東京, 1177 pp.
- 佐々木廣海・木下晃彦・奈良一秀 (2016) 地下生菌識別図鑑. 誠文堂新光社, 東京, 143 pp.
- 佐藤亮二 (2007) ショウロを見つけました. 静岡木の子の会会報, (7): 36

### 9.標本

静岡県産: ふじのくに地球環境史ミュージアム



静岡県 2015 年 11 月 26 日 小倉辰彦



(秋山富雄)

# ウズタケ *Coltricia montagnei* (Fr.) Murrill 1920

タバコウロコタケ科 Hymenochaetacea

[静岡県カテゴリー 情報不足 (DD) (要件 - )] [環境省カテゴリー なし]

## 1.種の解説

外生菌根菌。子実体は夏に広葉樹林内地上に発生。厚みのあるコマ形で、傘の表面は黄褐色から茶褐色、繊維状からビロード状で放射状の細かな筋と環紋がある。子実層托は同心円状のひだで、一部または全面が管孔となることがある。色は灰褐色から焦茶色。柄は中心生で下部に向かって細くなる。焦茶色から黒褐色でフェルト状。肉は黄褐色からさび褐色。担子胞子は卵形から楕円形、平滑である。

## 2.分布

国外では北半球（中国、ヨーロッパ、北アメリカ）に広く分布する。国内にも分布するが、やや稀である。県内では中部で確認している。

## 3.生育環境

県内では暖温帯広葉樹林内の岩の多い斜面や裸地に生育する。

## 4.生育状況

現在県内で確認されている子実体の発生場所は限定されており、発生数も少なく詳しいことは不明である。

## 5.減少の主要因と脅威

里山の雑木林の伐採により、生育地が減少している（11、23）。また腐植の少ない、痩せ地に生育することから他の微生物との競争に弱い可能性があり、林床の富栄養化などによる生育環境の悪化（53）により、容易に絶滅する危険がある。

## 6.保護対策

生育地の林の状況と環境を現状のまま維持・保全する必要がある。

## 7.特記事項

特になし。

## 8.主な文献

青木 実・日本きのこ同好会 名部みち代 編（2008）日本きのこ図版 第5巻. 日本きのこ同好会 2, 神戸, 795 pp.

池田良幸（2013）新版 北陸のきのこ図鑑. 橋本確文堂, 金沢, 396 pp.

今関六也・大谷吉雄・本郷次雄 編（2011）山溪カラー一名鑑 増補改訂新版 日本のきのこ. 山と溪谷社, 東京, 648 pp.

今関六也・大谷吉雄・本郷次雄 編（2011）山溪カラー一名鑑 増補改訂新版 日本のきのこ. 山と溪谷社, 東京, 648 pp.

勝本 謙（2010）日本産菌類集覧. 日本菌学会関東支部, 東京, 1177 pp.

城川四郎（1996）猿の腰掛け類きのこ図鑑. 地球社, 東京, 207 pp.

## 9.標本

なし。



牧之原市 2015年7月24日 小倉辰彦



(小倉辰彦)

# ヒメオツネンタケ *Coltriciella pusilla* (Imazeki & Kobayashi) Corner 1991

タバコウロコタケ科 Hymenochaetaceae

[静岡県カテゴリー 情報不足 (DD) (要件 - )] [環境省カテゴリー なし]

## 1.種の解説

子実体は夏に、林内のコケの生えた地上、シイ腐朽木上に発生。高さ1 cmほど。傘の径は0.5~1 cm、半円形からへら形。表面は暗褐色、不鮮明な環状があり、ビロード状。縁は薄く微細な鋸歯状。子実層托は管孔で、長さ1 mm以下。孔口は黄褐色、2~3個/mm。柄は褐色で細く、側生する。傘肉はきわめて薄く、海綿状で褐色。担子胞子は卵形から楕円形で、微細ないぼに覆われ、淡黄褐色である。

## 2.分布

国内では本州（東京都、静岡県、京都府、兵庫県など）の記録がある。県内では中部、西部、伊豆に分布する。

## 3.生育環境

県内では、里山の常緑広葉樹林内の腐植の少ない地上や広葉樹腐朽木上に生育している。

## 4.生育状況

現在の確認場所は、中部、西部、伊豆の各一ヶ所で、子実体の発生面積、発生量ともに少ない。

## 5.減少の主要因と脅威

常緑広葉樹林内で、生育に適した環境が、森林伐採(11)などにより減少している。

## 6.保護対策

現在の生育環境に手を加えないよう、現状の保持が必要である。

## 7.特記事項

特になし。

## 8.主な文献

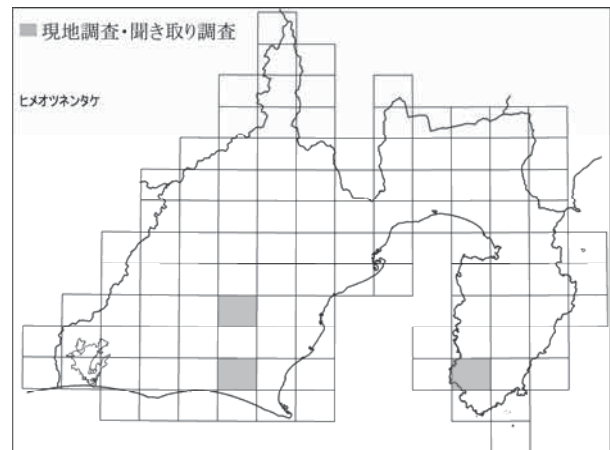
本郷次雄・上田俊穂（2006）新装版 山溪フィールドブックス7 きのこと。山と溪谷社，東京，384 pp.  
今関六也・本郷次雄（1989）原色日本新菌類図鑑（Ⅱ）．保育社，大阪，402 pp.  
勝本 謙（2010）日本産菌類集覧．日本菌学会関東支部，東京，1177 pp.

## 9.標本

島田市産、掛川市産、南伊豆町産：ふじのくに地球環境史ミュージアム



島田市 2015年7月12日 小倉辰彦



(池ヶ谷のり子)

# オオカボチャタケ *Hapalopilus croceus* (Pers.) Donk 1933

タマチョレイタケ科 Polyporaceae

[静岡県カテゴリー 情報不足 (DD) (要件 - )] [環境省カテゴリー なし]

## 1.種の解説

腐生菌。子実体は夏から秋に、ミズナラなどナラ類の生立木、枯死木上に発生。傘の径は10~20 cm、丸山形からくさび形。表面は橙黄色で、ビロード状。アルカリにより濃赤色に変色する。子実層托は管孔で濃橙色、孔口は橙黄色、2~3個/mm。無柄。傘肉は鮮橙色で多汁な肉質だが、乾燥すると黒褐色のヤニ状になる。担子胞子は広卵形、平滑である。

## 2.分布

国外ではヨーロッパ、中国、北アメリカ東部に、国内では北海道、本州に分布する。県内では中部に分布する。

## 3.生育環境

県内では冷温帯上部の自然林内で、ミズナラ生立木の幹辺材部の傷口から侵入して、材を白色腐朽して生育していたが、枯死木（ナラ類）にも生育する。

## 4.生育状況

現在確認できているのは一ヶ所である。

## 5.減少の主要因と脅威

伐採による自然林内のミズナラの減少が(11)考えられる。

## 6.保護対策

現在の生育環境に手を加えないよう、現状の保持が必要である。

## 7.特記事項

特になし。

## 8.主な文献

池田良幸(2013)新版 北陸のきのこ図鑑. 橋本確文堂, 金沢, 396 pp.

今関六也・大谷吉雄・本郷次雄編(2011)山溪カラー一名鑑 増補改訂新版 日本のきのこ. 山と溪谷社, 東京, 648 pp.

伊藤誠哉(1955)日本菌類誌 第二巻・第四号. 養賢堂, 東京, 450 pp.

勝本 謙(2010)日本産菌類集覧. 日本菌学会関東支部, 東京, 1177 pp.

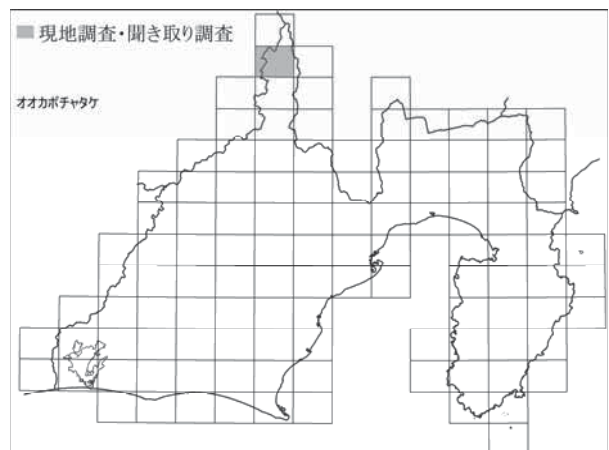
城川四郎(1996)猿の腰掛類きのこ図鑑. 地球社, 東京, 207 pp.

## 9.標本

静岡市産: ふじのくに地球環境史ミュージアム



静岡市 上:2015年9月12日、下:2014年7月27日  
池ヶ谷のり子



(池ヶ谷のり子)



## エゾシロアマタケ *Haploporus odorus* (Sommerf.) Bondartsev & Singer 1944

タマシロイタケ科 Polyporaceae

[静岡県カテゴリー 情報不足 (DD) (要件 - )] [環境省カテゴリー なし]

### 1.種の解説

腐生菌。子実体は、寒冷地のヤナギなどの広葉樹上に発生。無柄で、傘表面、子実層托ともに類白色から淡褐色。子実層托は管孔で、孔口は3個/mm。全体に強いアニス状の芳香をもつ。担子胞子は類球形である。

### 2.分布

寒冷地に分布する。国内では北海道、本州に、県内では中部に分布する。

### 3.生育環境

県内では冷温帯上部で、河岸林のヤナギ類などの広葉樹に生育し、白色腐朽する。

### 4.生育状況

子実体の発生確認はごく限られ、確認場所も限られる。富士山では現在未確認である。

### 5.減少の主要因と脅威

道路建設(24)などに伴う生育地である河岸林内のヤナギ類の消失が脅威となる。

### 6.保護対策

現在の生育環境の保全が必要である。

### 7.特記事項

特になし。

### 8.主な文献

本郷次雄 監修 (2006) 新装版山溪フィールドブックス7きのこ. 山と溪谷社, 東京, 384 pp.

勝本 謙 (2010) 日本産菌類集覧. 日本菌学会関東支部, 船橋, 1177 pp.

### 9.標本

静岡市産: ふじのくに地球環境史ミュージアム



静岡市 2009年8月1日 池ヶ谷のり子



(池ヶ谷のり子)

# センニタケ *Albatrellus pes-caprae* (Pers.) Pouzar 1966

ニンギョウタケモドキ科 Albatrellaceae

[静岡県カテゴリー 情報不足 (DD) (要件 - )] [環境省カテゴリー なし]

## 1.種の解説

外生菌根菌。子実体は秋、針葉樹林内に、東北地方ではブナ林内の裸地に発生。傘は径5~15 cm、半円形もしくは腎臓形で、表面は暗黄緑色から緑褐色、やや毛羽立った鱗片で覆われる。子実層托は管孔で、柄に垂生し、白色から黄土色。孔口はやや角ばり、1~2個/mm。柄は長さ2~5 cm、太さ1~2 cm、側生から偏心生である。肉は厚く、白~淡黄色。担子孢子は広卵形から短楕円形である。

## 2.分布

国外ではアジア、ヨーロッパ、北アメリカに、国内では近畿地方以北に分布する。県内では中部に分布する。

## 3.生育環境

県内では亜高山帯のウラジロモミ林、コメツガ・シラビソ林で菌根共生して、尾根付近の原生的自然林内の腐植の少ない林床に生育している。

## 4.生育状況

県内で子実体の発生が現在確認されているのは中部で、発生場所は限られ、発生量も少ない。

## 5.減少の主要因と脅威

生育に適した自然環境が限られており、林道の拡張工事など(24)で原生的自然林が伐採される(11)など、環境が変化すると、生育地が消失する所がある。

## 6.保護対策

生育地の現状の環境を維持する必要がある。

## 7.特記事項

特になし。

## 8.主な文献

池田良幸(2013)新版 北陸のきのこ図鑑. 橋本確文堂, 金沢, 396 pp.

今関六也・大谷吉雄・本郷次雄編(2011)山溪カラー名鑑 増補改訂新版 日本のきのこ. 山と溪谷社, 東京, 648 pp.

今関六也・本郷次雄編(1989)原色日本新菌類図鑑(II). 保育社, 大阪, 402 pp.

勝本 謙(2010)日本産菌類集覧. 日本菌学会関東支部, 船橋, 1177 pp.

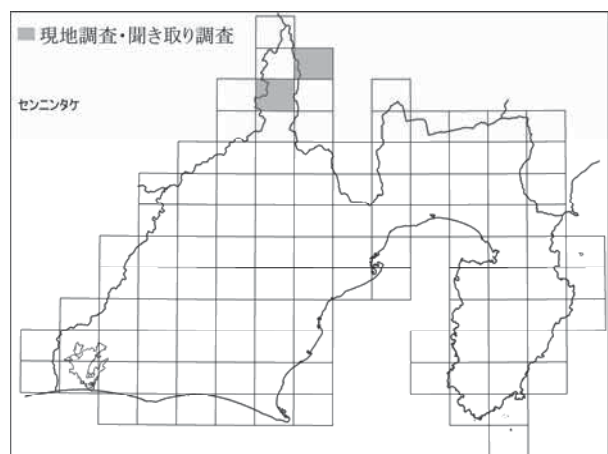
工藤伸一(2017)青森県産きのこ図鑑. アクセス二十一出版, 青森, 535 pp.

## 9.標本

静岡市産: ふじのくに地球環境史ミュージアム



静岡市 2014年9月14日 岸澤広晶



(岸澤広晶)

# ケショウシロハツ *Lactarius controversus* Pers. 1800

ベニタケ科 Russulaceae

[静岡県カテゴリー 情報不足 (DD) (要件 - )] [環境省カテゴリー なし]

## 1.種の解説

外生菌根菌。子実体は夏から秋に、ヤマナラシ属樹下に発生。傘は中央が少し窪むまんじゅう形からじょうご形になる。表面は粘性があり、白色で大きな淡赤褐色の斑紋ができる。周辺部には淡赤褐色の環紋をつける。ひだは垂生し、密。類白色のち赤みを帯びた肌色になる。乳液は白色で少量、辛味がある。柄は太短く、傘と同色。担子胞子は楕円形から広卵形で細かい網目と少数の細粒に覆われる。

## 2.分布

国内を含めて北半球温帯以北に分布する。県内では中部に分布する。

## 3.生育環境

ヤマナラシ属樹種と菌根共生して生育する。県内で生育が確認されているのは、冷温帯で河岸林を形成するドロノキ樹下である。

## 4.生育状況

県内のドロノキ生育地は限られるため、確認地は少ない。引き続き調査が必要である。

## 5.減少の主要因と脅威

伐採 (11) などによるドロノキ群落の消滅は、生育地の消失につながる。

## 6.保護対策

宿主樹種群落の維持と、現在の生育環境の保持が必要である。

## 7.特記事項

特になし。

## 8.主な文献

本郷次雄 監修 (2006) 新装版 山溪フィールドブックス7きのこ. 山と溪谷社, 東京, 384 pp.

池田良幸 (2013) 新版 北陸のきのこ図鑑. 橋本確文堂, 金沢, 396 pp.

今関六也・大谷吉雄・本郷次雄 編 (2011) 山溪カラー名鑑 増補改訂新版 日本のきのこ. 山と溪谷社, 東京, 648 pp.

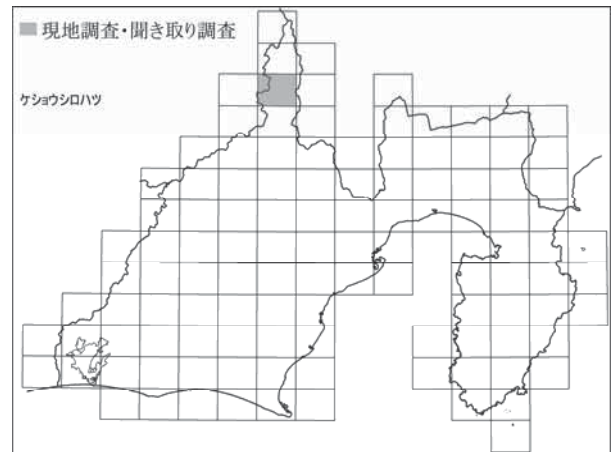
勝本 謙 (2010) 日本産菌類集覧. 日本菌学会関東支部, 東京, 1177 pp.

## 9.標本

静岡市産：ふじのくに地球環境史ミュージアム



静岡市 2016年8月9日 池ヶ谷のり子



(池ヶ谷のり子)

# フチドリクロチチタケ *Lactarius nigroviolascens* G. F. Atk. 1918

ベニタケ科 Russulaceae

[静岡県カテゴリー 情報不足 (DD) (要件 - )] [環境省カテゴリー なし]

## 1.種の解説

外生菌根菌。子実体は夏から秋に雑木林地上に発生。傘は径3~6 cm、まんじゅう形から平らに開くが、中央は窪み、円錐形の中丘をしばしば残す。表面はビロード状で暗褐色から黒褐色、放射状の小じわがある。ひだは疎。白色から乳白色で暗褐色に縁取られる。乳液は白色から暗紫色に変色。柄は傘と同色でビロード状。肉は白色で傷時紫変。担子胞子は類球形で、粗い刺状突起とそれを結ぶ網目に覆われる。

## 2.分布

国外では北米東部に分布する。国内では本州（静岡県、石川県、富山県、京都府、滋賀県）で確認されている。県内では中部、西部で確認している。

## 3.生育環境

里山の湿度をえられやすいシイ・カシ林、コナラ林、コナラ・アカマツ混生林内で、これらの樹木と菌根共生して生育する。

## 4.生育状況

生育場所が局地的で、子実体の発生量も少ない。

## 5.減少の主要因と脅威

生育適地の雑木林の伐採（11）が主要因と考えられる。

## 6.保護対策

生育地の雑木林の自然環境を保全することが必要である。

## 7.特記事項

特になし。

## 8.主な文献

青木 実・日本きのこ同好会 名部みち代 編(2008) 日本きのこ図版 第5巻. 日本きのこ同好会 2, 神戸, 795 pp.

池田良幸 (2013) 新版 北陸のきのこ図鑑, 橋本 確文堂, 金沢, 396 pp.

今関六也・本郷次雄 編(1989) 原色日本新菌類図鑑(Ⅱ). 保育社, 大阪, 402 pp.

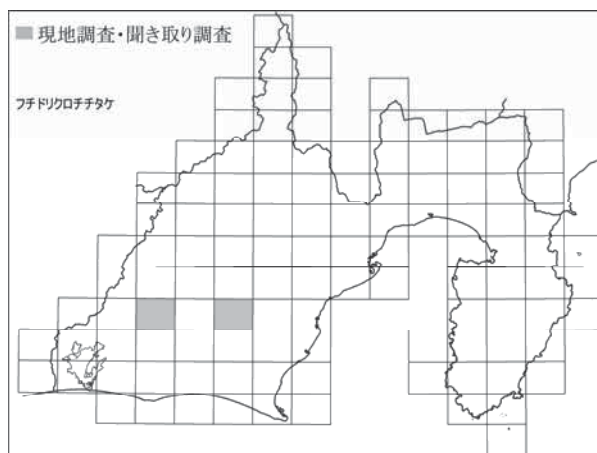
勝本 謙 (2010) 日本産菌類集覧. 日本菌学会関東支部, 東京, 1177 pp.

## 9.標本

島田市産：ふじのくに地球環境史ミュージアム



©2020 T.Ogura  
浜松市 2013年6月17日 小倉辰彦



(小倉辰彦)

# シロオニタケモドキ *Amanita hongoi* Bas 1969

テングタケ科 Amanitaceae

[ 静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) ] [ 環境省カテゴリー なし ]

## 1.種の解説

外生菌根菌。子実体は夏から秋に、広葉樹林内地上に発生する。傘は15～17 cm、半球形から平らに開く。表面は淡黄褐色から淡褐色で、先の尖った錐状のいぼで覆われる。ひだは離生し密、白色から淡クリーム色。柄の基部は塊茎状で、輪状に小さいいぼが付着する。つばは柄の頂部から垂れ下がり、膜質でクリーム色。肉は白色。担子胞子は卵状類球形である。シロオニタケに似るが、全体が帯褐色で、つばが永存性である。

## 2.分布

日本固有種で、国内では本州、九州に分布する。県内では東部、中部、西部、伊豆で確認している。

## 3.生育環境

県内では暖温帯のスダジイ、コナラ樹下で菌根共生して生育している。

## 4.生育状況

県内の各地域に生育しているが、生育箇所は限られる。場所によっては、近年発生が確認できないところもある。

## 5.減少の主要因と脅威

丘陵地のブナ科樹木の伐採(11)、宅地開発(23)による生育適地の減少がある。また県内生育地では、現在ナラ枯れが進行しつつあり、影響を受ける可能性がある(71)。

## 6.保護対策

現在の生育地の自然環境の保持が必要である。

## 7.特記事項

特になし。

## 8.主な文献

細矢 剛・埋橋志穂美・保坂健太郎・工藤伸一(2016)日本産固有菌類目録の作成に向けて生物多様性データベースを利用した日本固有のきのこリスト作成の試み。日菌報, 57: 77-84

本郷次雄 監修(2006)新装版山溪フィールドブックス きのこ。山と溪谷社, 東京, 384 pp.

池田良幸(2013)新版 北陸のきのこ図鑑。橋本確文堂, 金沢, 396 pp.

今関六也・本郷次雄 編(1987)原色日本新菌類図鑑( )。保育社, 大阪, 325 pp.

勝本 謙(2010)日本産菌類集覧。日本菌学会関東支部, 東京, 1177 pp.

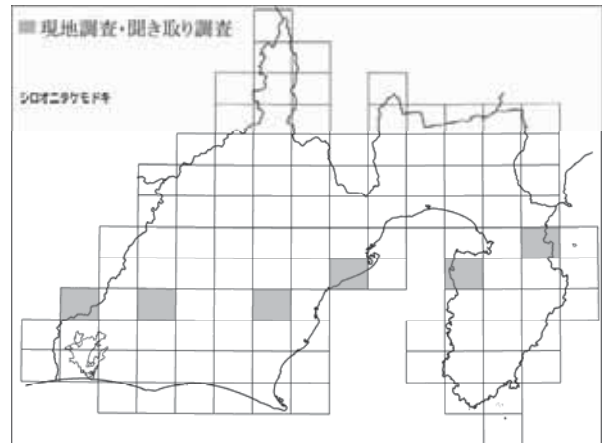
幼菌の会 編(2001)カラー版きのこ図鑑。家の光協会, 東京, 335 pp.

## 9.標本

沼津市産、静岡市産、浜松市産：ふじのくに地球環境史ミュージアム



浜松市 2016年10月10日 池ヶ谷のり子



(池ヶ谷のり子)

カバイロコナテングタケ *Amanita rufoferruginea* Hongo 1966

テングタケ科 Amanitaceae

[ 静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) ] [ 環境省カテゴリー なし ]

1.種の解説

外生菌根菌。子実体は夏から初秋に、主としてアカマツ・コナラ林内地上に発生。傘は球形から平らに開く。表面は明るい帯褐橙色で、同色の粉質物に覆われ、周辺には短い溝線がある。ひだは離生し、白色、密。柄の上部は細くなり、基部は球根状にふくらむ。表面は傘と同様の粉物質に覆われ、上部に白色膜質のつばがあるが脱落しやすい。肉は白色。担子胞子は球形から類球形である。

2.分布

国外では中国、韓国に、国内では関東以西に分布する。県内では東部、中部、西部、伊豆で確認している。

3.生育環境

里山のコナラ林、アカマツ・コナラ林内で、菌根共生して生育する。

4.生育状況

アカマツ・コナラ林に生育するが、確認地は減少し、子実体の発生量も減少傾向にある。

5.減少の主要因と脅威

植林化に伴う雑木林の減少(11)、マツ枯れによるアカマツの減少(71)が主要因と考えられる。最近のナラ枯れによるコナラの減少(71)の影響の可能性もある。

6.保護対策

アカマツ・コナラ林を残し、維持管理していく必要がある。

7.特記事項

特になし。

8.主な文献

池田良幸(2013)新版 北陸のきのこ図鑑・橋本確文堂, 金沢, 396 pp.

今関六也・本郷次雄 編(1987)原色日本新菌類図鑑( )。保育社, 大阪, 325 pp.

今関六也・大谷吉雄・本郷次雄 編(2011)山溪カラー名鑑 増補改訂新版 日本のきのこ。山と溪谷社, 東京, 648 pp.

勝本 謙(2010)日本産菌類集覧。日本菌学会関東支部, 東京, 1177 pp.

武藤治彦(2010)静岡木の子の会の探索会における採集リスト(2007~2009)。静岡木の子の会会報, (8): 9-28

9.標本

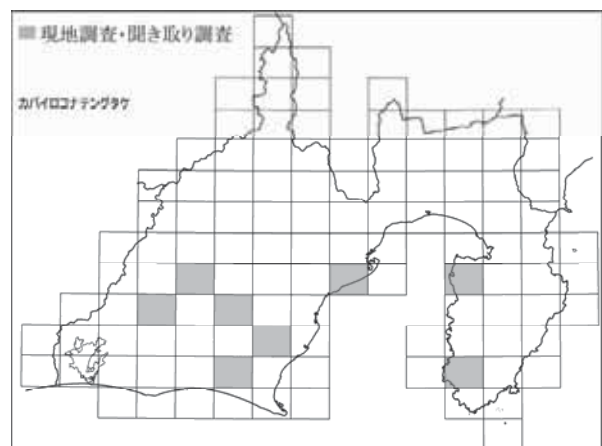
沼津市産、静岡市産、掛川市産、森町産、浜松市産：ふじのくに地球環境史ミュージアム



森町 2016年9月23日 幼子実体 河村正幸



森町 2018年9月26日 河村正幸



(河村正幸)

ミヤマムラサキフウセンタケ *Cortinarius hercynicus* (Pers.) M. M. Moser 1967  
 フウセンタケ科 Cortinariaceae  
 [静岡県カテゴリー 要注目種(N- 部会注目種)] [環境省カテゴリー なし]

1.種の解説

外生菌根菌。子実体は夏から秋に、亜高山帯針葉樹林内地上に発生。傘はまんじゅう形からやや中高の平らに開く。表面は粘性なく暗紫色で細かいささくれた鱗片に覆われる。ひだは幅広く疎で、青紫色からさび褐色になる。柄は傘と同色。クモの巣膜がある。肉は青紫色。担子胞子はアーモンド形でいばに覆われる。類似種のムラサキフウセンタケは、ブナ、ミズナラなどの広葉樹林に発生する。

2.分布

国外ではヨーロッパ、北米に、国内では北海道、本州（中部以北）に分布する。県内では東部、中部で確認している。

3.生育環境

県内では亜高山帯のトウヒ属、マツ属、モミ属の天然林内で菌根共生して生育している。

4.生育状況

生育に適した亜高山帯針葉樹林は多くはなく、子実体の発生量も少ない。

5.減少の主要因と脅威

森林伐採による天然林の減少(11)が考えられる。コケに覆われた林床に子実体が発生しており、登山道以外の林床の人による踏みつけは生育環境を悪化させる可能性がある(51)。

6.保護対策

現在の自然環境を保持する必要がある。

7.特記事項

種の同定は(財)日本きのこセンター菌茸研究所の長澤栄史特別研究員にいただいた。

8.主な文献

今関六也・本郷次雄 編(1987)原色日本新菌類図鑑( )。保育社、大阪、325 pp.

勝本 謙(2010)日本産菌類集覧。日本菌学会関東支部、東京、1177 pp.

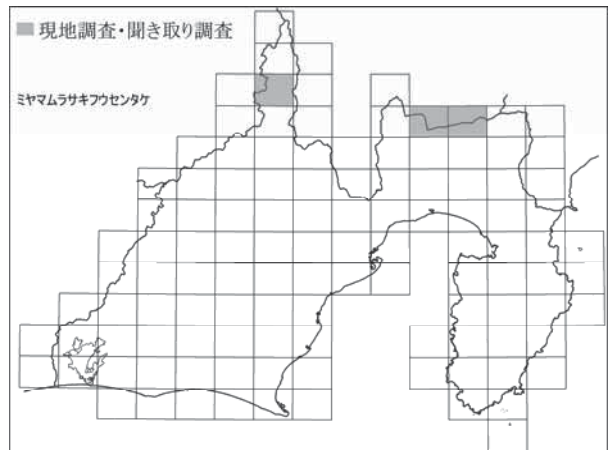
新潟きのこ同好会(2010)新潟県のきのこ。新潟日報事業社、新潟、159 pp.

9.標本

小山町産、静岡市産：ふじのくに地球環境史ミュージアム



小山町 2015年9月20日 小倉辰彦



(池ヶ谷のり子)

# オニフウセンタケ *Cortinarius nigrosquamosus* Hongo 1969

フウセンタケ科 Cortinariaceae

[ 静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) ] [ 環境省カテゴリー なし ]

## 1.種の解説

外生菌根菌。子実体は初夏及び秋に、広葉樹林内地上に発生。傘はまんじゅう形から平らに開く。表面は黄上色の地に黒色の多数の鱗片（中央部付近ではささくれ状または錐状）をそなえる。ひだはニッケイ色でやや疎。柄は下部がこん棒状にふくらみ、色は傘と同色。上部につば（クモの巣膜）があり、つばより下は傘同様の黒色の鱗片をつける。肉は類白色から淡黄土色。担子胞子は類球形で、いばに覆われる。

## 2.分布

国外ではニューギニア、国内では本州、四国、九州に分布する。県内では東部、中部、伊豆に分布する。

## 3.生育環境

宿主樹種はシイ、カシ、コナラ、ブナなどであるが、県内では里山のシイ・カシ林、コナラ林で確認している。

## 4.生育状況

県内での発生は稀で、発生地は限られる。宿主樹木の生育する雑木林があっても、必ずしも子実体の発生がみられるわけではなく、他の生育要因があると考えられるが、詳細は不明である。

## 5.減少の主要因と脅威

生育環境である里山のブナ科広葉樹林が、スギ、ヒノキの植林化（11）及び宅地化（23）して減少している。

## 6.保護対策

生育地の林の状況と環境を現状のまま維持・保全する必要がある。

## 7.特記事項

特になし。

## 8.主な文献

青木 実・日本きのこ同好会 名部みち代 編（2008）日本きのこ図版 第4巻．日本きのこ同好会 2，神戸，850 pp.

池田良幸（2013）新版 北陸のきのこ図鑑．橋本確文堂，金沢，396 pp.

今関六也・大谷吉雄・本郷次雄 編（2011）山溪カラー名鑑 増補改訂新版 日本のきのこ．山と溪谷社，東京，648 pp.

今関六也・本郷次雄 編（1987）原色日本新菌類図鑑（ ）．保育社，大阪，325 pp.

勝本 謙（2010）日本産菌類集覧．日本菌学会関東支部，船橋，1177 pp.

## 9.標本

富士宮市産：ふじのくに地球環境史ミュージアム



©2020 T. Ogura  
富士宮市 2016年6月4日 小倉辰彦



（小倉辰彦）



ソライロタケ *Entoloma virescens* (Berk. & M. A. Curtis) E. Horak 1986

イッポンシメジ科 Entolomataceae

[静岡県カテゴリー 要注目種(N- 部会注目種)] [環境省カテゴリー なし]

1.種の解説

腐生菌。子実体は夏から秋に、各種林内地上に発生。全体が鮮やかな空色。傘は径2~3.5 cmの円錐形で、表面は微細な繊維状の鱗片に覆われる。傷ついたり触ったりすると黄色に変色する。ひだは柄に上生から離生し、空色から胞子の成熟に伴い肌色を帯びる。柄は表面に少しねじれたような繊維状の模様が見られる。担子胞子は四角形である。

2.分布

国外では東南アジア(?)に分布する。国内では本州から沖縄にかけて分布し、県内では中部、西部で確認している。

3.生育環境

熱帯地方を中心に分布する。県内では暖温帯のアカマツ、コナラなどの混生林の腐葉土上に生育するが、他県では竹林やスギ林に子実体が発生した例も報告されている。

4.生育状況

若い子実体は鮮やかな空色で特徴があるが、県内では子実体の発生が稀である。一度に発生する量も少ないため確認事例が少ない。

5.減少の主要因と脅威

不明である(99)。

6.保護対策

現在の生育地の自然環境を維持する必要がある。

7.特記事項

特になし。

8.主な文献

今関六也・大谷吉雄・本郷次雄 編(2011)山溪カラー名鑑 増補改訂新版 日本のきのこ。山と溪谷社, 東京, 648 pp.

今関六也・本郷次雄 編(1987)原色日本新菌類図鑑( )。保育社, 大阪, 325 pp.

伊藤誠哉(1959)日本菌類誌 第二巻・第五号。養賢堂, 東京, 658 pp

勝本 謙(2010)日本産菌類集覧。日本菌学会関東支部, 船橋, 1177 pp.

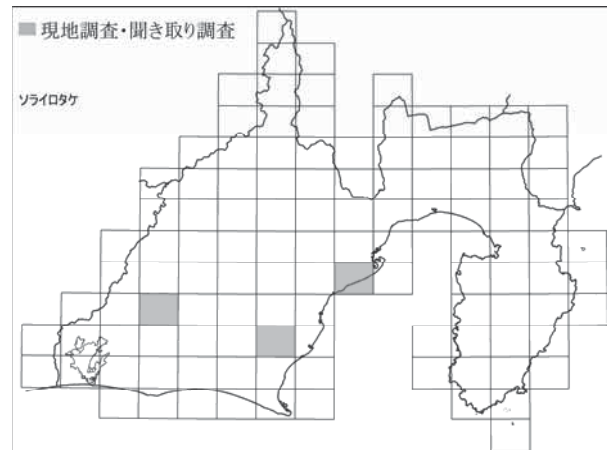
武藤治彦(2007)静岡木の子の会探索会で採集されたきのこ—静岡県内—(1990~2006)。静岡木の子の会会報, (7): 14-25

9.標本

なし。



牧之原市 2016年9月19日 胸組伸行



(小倉辰彦)

# カンゾウタケ *Fistulina hepatica* (Schaeff.) With. 1792

カンゾウタケ科 *Fistulinaceae*

[静岡県カテゴリー 要注目種(N- 部会注目種)] [環境省カテゴリー なし]

## 1.種の解説

腐生菌。子実体は、5～6月または10月頃、シイ老木の生立木の根際に発生することが多い。傘は肝臓から牛の舌状。表面は赤紅色から暗赤褐色で、微粒を帯びる。子実層托は独立した円柱状の管の集合体で、長さ5～10 mm、径0.2 mmほど。孔口は黄白色から淡紅色。肉は赤と白の縞模様をあらわし、赤い汁を含んで獣肉様、酸味がある。担子胞子は卵形である。

## 2.分布

全世界に広く分布する。欧米ではナラ類に発生することが多く、冷涼な地域にも分布するが、日本では主にシイに発生し、暖温帯を中心に分布する。県内では中部、西部に分布する。

## 3.生育環境

照葉樹林内で、主にシイ類の大径木の心材部を褐色腐朽して生育する。

## 4.生育状況

生育環境は限られており、子実体の発生が見られるのは、樹木の繁茂する神社、寺院、公園などの暗い環境下に生育するシイ類、コナラの古木（酒井敏明氏私信）である。それら生立木の樹洞、地際または腐朽木の倒木、切株に発生する。伊豆で生育確認が取れていないのは、調査不足の可能性が高い。

## 5.減少の主要因と脅威

大きな心材部をもつ大径木のシイ類などが、伐採（11）されて減少していることが要因となっている。さらに最近ではカシノナガキクイムシによるナラ類やシイ・カシ類が大量に枯れるナラ枯れ被害（71）もある。

## 6.保護対策

神社、寺院などのシイ類の古木を保護することが必要である。また生立木の心材腐朽菌のため、子実体の発生年数は長く、腐朽を受けた木は倒木、切株からも子実体が発生する。生育に適した生立木の中に侵入する機会は限られるため、子実体が発生している倒木の撤去はしないで、胞子の散布をできるだけ長期間行わせた方がよいと考える。

## 7.特記事項

特になし。

## 8.主な文献

池田良幸（2013）新版 北陸のきのこ図鑑．橋本確文堂，金沢，396 pp．

今関六也・大谷吉雄・本郷次雄 編（2011）山溪カラー名鑑 増補改訂新版 日本のきのこ．山と溪谷社，東京，648 pp．

今関六也・本郷次雄 編（1989）原色日本新菌類図鑑（ ）．保育社，大阪，402 pp．

伊藤誠哉（1955）日本菌類誌 第二巻・第四号．養賢堂，東京，450 pp．

勝本 謙（2010）日本産菌類集覧．日本菌学会関東支部，東京，1177 pp．

城川四郎（1996）猿の腰掛類図鑑．地球社，東京，207 pp．

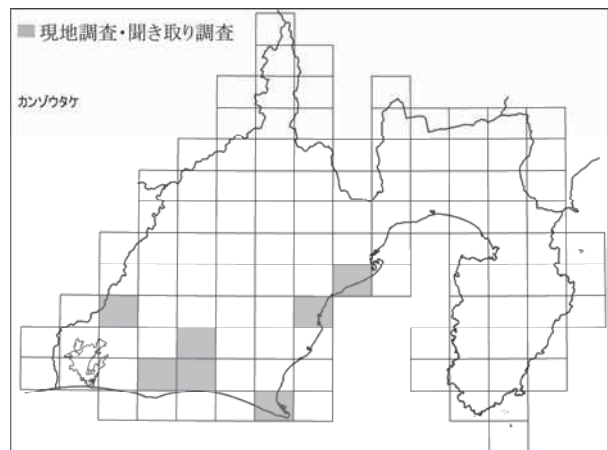
## 9.標本

静岡県産、磐田市産、浜松市産：ふじのくに地球環境史ミュージアム

（真橋祐次郎）



©2020 Y. Mahashi  
浜松市 2016年5月25日 真橋祐次郎



シロコケシジミガサ(仮称) *Arrhenia* sp.

ヌメリガサ科 Hygrophoraceae

[静岡県カテゴリー 要注目種(N- 部会注目種)] [環境省カテゴリー なし]

1.種の解説

子実体は初夏から夏、斜面の湿ったコケの中に発生する。傘は径8 mm 前後、白色の茶椀形で柄はなく、周辺部は不規則に波打つ。子実層托はややしわひだ状である。担子胞子は楕円形である。

2.分布

日本。県内では中部に分布する。

3.生育環境

雪解け後の山地の斜面を流れるせせらぎに発生するコケの植物体に、子実体がまとわりついて発生しているが、コケとの関係は不明である。

4.生育状況

冷温帯上部の沢に生育するが、調査不足のため詳細は不明である。

5.減少の主要因と脅威

道路建設などにより、現生育地が消滅する可能性がある(24)。

6.保護対策

現在の自然環境を維持する必要がある。

7.特記事項

特になし。

8.主な文献

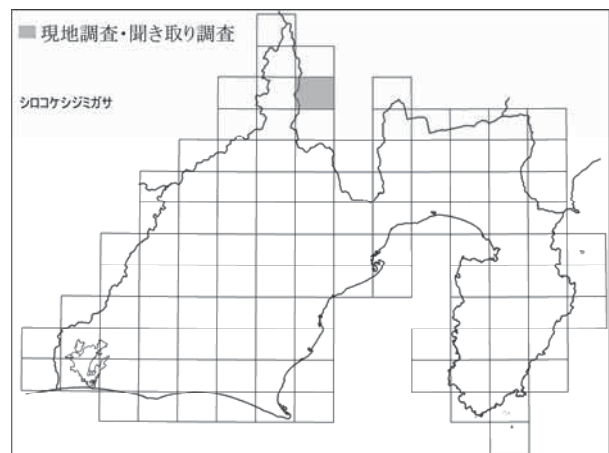
本郷次雄 監修(2006)新装版 山溪フィールドブック 7 きのこ・山と溪谷社, 東京, 383 pp.

9.標本

静岡市産: ふじのくに地球環境史ミュージアム



静岡市 2014年6月14日 小倉辰彦



(小倉辰彦)

# ヒメサクラシメジ *Hygrophorus capreolarius* Kalchbr. 1875

ヌメリガサ科 Hygrophoraceae

[ 静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) ] [ 環境省カテゴリー なし ]

## 1.種の解説

外生菌根菌。子実体は秋に、主にモミ属の林内に発生。傘は2~5 cm。中高のまんじゅう形から平らに開く。表面は平滑、しばしば中央部に圧着小鱗片をもち暗赤褐色。湿時粘性がある。ひだは淡褐色から赤褐色で、疎。柄はほぼ傘と同色で、中実。肉は白色から薄い肉色で苦味はない。担子孢子は楕円形である。

## 2.分布

日本を含めて北半球温帯以北に分布する。県内では中部、東部に分布する。

## 3.生育環境

モミ、ウラジロモミなどのモミ属の林で、菌根共生して生育している。

## 4.生育状況

山梨県内の富士川沿いに連続する山系のモミが残っている場所では、多くの場所で子実体の発生が認められ、同山系の稜線に残された県内のモミ林でも発生している。中部のウラジロモミ林では、近年は発生確認が減少している。

## 5.減少の主要因と脅威

スギ、ヒノキの植林化に伴い、モミ林やモミの大木が少なくなってきたためか発生量が減少気味である(11)。

## 6.保護対策

ウラジロモミの人工林内では、子実体発生は確認されておらず、菌根共生するモミが生育する現在の環境を、現状のまま維持・保全する必要がある。

## 7.特記事項

特になし。

## 8.主な文献

青木 実・日本きのこ同好会 名部みち代 編(2008)日本きのこ図版 第1巻. 日本きのこ同好会 2, 神戸, 815 pp.

本郷次雄 監修(2006)新装版 山溪フィールドブックス7 きのこ. 山と溪谷社, 東京, 383 pp.

池田良幸(2013)新版 北陸のきのこ図鑑. 橋本確文堂, 金沢, 396 pp.

伊藤誠哉(1959)日本菌類誌 第二巻・第五号. 養賢堂, 東京, 658 pp.

今関六也・大谷吉雄・本郷次雄 編(2011)山溪カラー名鑑 増補改訂新版 日本のきのこ. 山と溪谷社, 東京, 648 pp.

今関六也・本郷次雄 編(1987)原色日本新菌類図鑑( ). 保育社, 大阪, 325 pp.

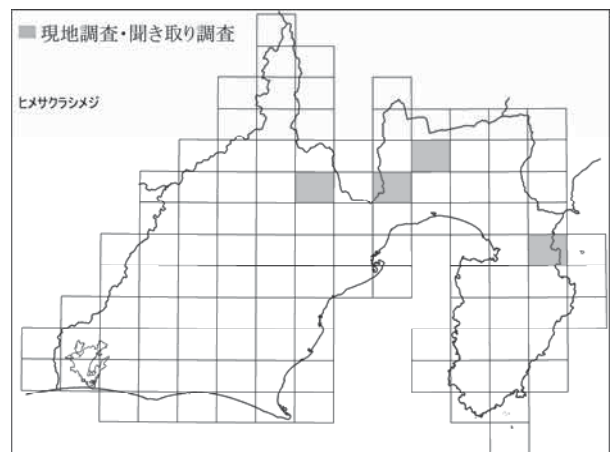
武藤治彦(2007)静岡木の子の会探索会で採集されたきのこ 静岡県内(1990~2006). 静岡木の子の会 会報, (7): 14-25

## 9.標本

なし。



富士宮市 2014年11月2日 小倉辰彦



(小倉辰彦)

ナメニセムクエタケ *Phaeocollybia christinae* (Fr.) R. Heim 1931

ヒメノガステル科 Hymenogasteraceae

[ 静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) ] [ 環境省カテゴリー なし ]

1.種の解説

外生菌根菌。子実体は夏に、針葉樹林地上に単生から群生。傘は径3 cm 前後、赤茶色で多少粘性があり、中央部は円錐形に尖る。ひだは黄褐色で密。柄は傘と同色で細長く、軟骨質で中空、基部が根状に伸び地中に深く潜る。担子孢子はアーモンド形で微いぼに覆われる。

2.分布

国外ではヨーロッパ、北アメリカに、国内では北海道、本州(中部以北)に分布する。県内では中部で確認している。

3.生育環境

県内では亜高山帯針葉樹林内で菌根共生している。子実体の柄は地中にかなり深く潜っており、土と根と菌糸が一体になった菌糸塊(シロ)は、腐植層の下深くに広がっていると考えられる。

4.生育状況

原生的自然林のコメツガやシラビソの樹下に子実体が発生するが、発生場所は限られる。富士山では現在未確認である。

5.減少の主要因と脅威

亜高山帯針葉樹林における森林伐採による原生的自然林の減少が要因の一つとして考えられる(11)。

6.保護対策

現在の生育地の自然環境を保全する必要がある。

7.特記事項

特になし。

8.主な文献

保坂健太郎(2017)小学館の図鑑・ネオきのこ。小学館,東京,159 pp.

本郷次雄 監修(2006)新装版 山溪フィールドブックス7 きのこ。山と溪谷社,東京,383 pp.

伊藤誠哉(1959)日本菌類誌 第二巻・第五号。養賢堂,東京,658 pp.

勝本 謙(2010)日本産菌類集覧。日本菌学会関東支部,船橋,1177 pp.

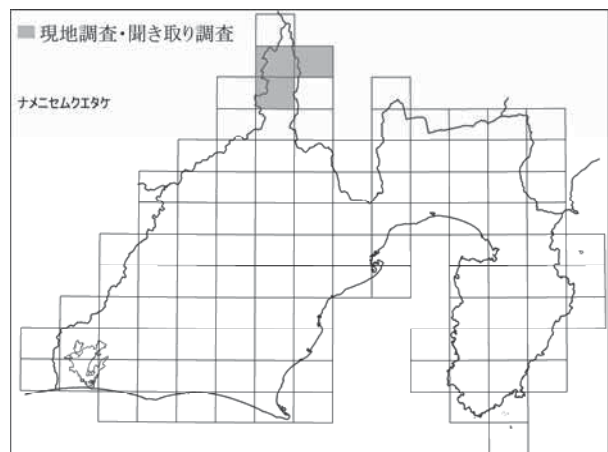
幼菌の会 編(2001)カラー版 きのこ図鑑。家の光協会,東京,335 pp.

9.標本

静岡市産:ふじのくに地球環境史ミュージアム



静岡市 2014年9月13日 小倉辰彦



(小倉辰彦)

### 1.種の解説

外生菌根菌。子実体は秋に、アカマツ・コナラ林などに発生。傘は径1.5~5 cm、半球形からまんじゅう形のち平となり、さらにそり返って皿状となる。表面は暗褐色のち灰色から淡褐色となる。ひだは白色から淡灰色で、密。柄は長さ1~10 cm、白色から淡灰色、根もとで多数が合着し、塊茎状の根株となる。担子胞子は球形から類球形である。

### 2.分布

国内を含めて北半球温帯に分布する。県内では中部、西部、伊豆に分布する。

### 3.生育環境

里山のアカマツ・コナラ林など、コナラ、クヌギ、マツの混生林で菌根共生して生育する。

### 4.生育状況

宿主樹木の生育する里山の雑木林が、スギ、ヒノキの植林化などにより減少している。また除伐、間伐などの保育管理が不整備で雑木林が荒廃し、発生量が少なくなっている。

### 5.減少の主要因と脅威

生育環境である雑木林が植林化により減少(11)していることに加えて、生活の変化などにより雑木林の手入れが行われなくなって荒廃し(53)、生育環境が悪化している。里山の食用菌で採取圧も高い(42)。

### 6.保護対策

雑木林の維持と適正な管理が必要である。採取制限による保護も必要と考えられる。

### 7.特記事項

特になし。

### 8.主な文献

池田良幸(2013)新版 北陸のきのこ図鑑。橋本確文堂, 金沢, 396 pp.

今関六也・本郷次雄 編(1987)原色日本新菌類図鑑( )。保育社, 大阪, 325 pp.

今関六也・大谷吉雄・本郷次雄 編(2011)山溪カラー名鑑 増補改訂新版 日本のきのこ。山と溪谷社, 東京, 648 pp.

伊藤誠哉(1959)日本菌類誌 第二巻・第五号。養賢堂, 東京, 658 pp.

勝本 謙(2010)日本産菌類集覧。日本菌学会関東支部, 東京, 1177 pp.

工藤伸一(2017)青森県産きのこ図鑑。アクセス二十一世紀出版, 青森, 535 pp.

### 9.標本

静岡県産: ふじのくに地球環境史ミュージアム



静岡県 2005年9月18日 小倉辰彦



(秋山富雄)

### 1.種の解説

外生菌根菌。子実体は夏から秋に、林内ブナ科樹下に発生。傘は半球形からまんじゅう形、表面は栗褐色から帯紫茶褐色。子実層托は管孔で、柄の周囲で陥没し、黄色のち緑色を帯びる。柄は長く9~23 cm、基部付近で一方に曲がる。柄の表面は軟毛に覆われ、傘よりやや暗色、中実。肉は淡黄色、切断面は無変色かやや赤変。担子胞子は楕円形から円柱形で、縦条に覆われるが、横筋はない。

### 2.分布

国外では北アメリカ(メキシコ)に、国内では本州、九州に分布する。県内では東部、中部、西部、伊豆に分布する。

### 3.生育環境

県内では、里山の常緑広葉樹林でシイ、カシなどと菌根共生して生育する。

### 4.生育状況

県内において、現在各地域での子実体の発生を確認しているが、発生場所は限定され、発生量も少ない。

### 5.減少の主要因と脅威

生育に適した良好な常緑広葉樹林が、森林伐採により減少している(11)。

### 6.保護対策

現生育地の自然環境を保全することが必要である。

### 7.特記事項

特になし。

### 8.主な文献

池田良幸(2013) 新版 北陸のきのこ図鑑。橋本確文堂、金沢、396 pp.

今関六也・本郷次雄 編(1987) 原色日本新菌類図鑑( )。保育社、大阪、325 pp.

今関六也・大谷吉雄・本郷次雄 編(2011) 山溪カラー名鑑 増補改訂新版 日本のきのこ。山と溪谷社、東京、648 pp.

勝本 謙(2010) 日本産菌類集覧。日本菌学会関東支部、東京、1177 pp.

武藤治彦(2007) 静岡木の子の会探索会で採集されたきのこ 静岡県内(1990~2006)。静岡木の子の会会報,(7): 14-25

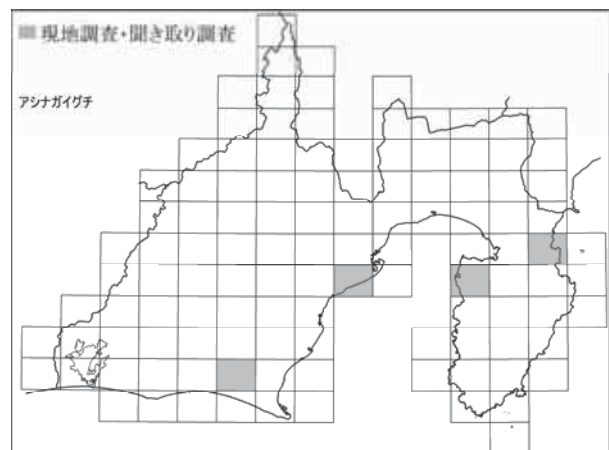
Nagasawa, E. (1984) *Boletellus elatus*, a new bolete from Japan. *Trans. Mycol. Soc. Japan*, 25: 361-366

### 9.標本

沼津市産、静岡市産、掛川市産：ふじのくに地球環境史ミュージアム



沼津市 2012年9月22日 岸澤広晶



(岸澤広晶)

# オオキノボリイグチ *Boletellus mirabilis* (Murrill) Singer 1945

イグチ科 Boletaceae

[ 静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) ] [ 環境省カテゴリー なし ]

## 1.種の解説

外生菌根菌。子実体は夏から秋に、主にコメツガの腐朽木、切株及びその周辺に発生。傘はまんじゅう形。表面は乾燥して綿毛状の小さな鱗片で密に覆われ、暗赤色から暗赤褐色。帯黄色の円形の斑紋がある。管孔は淡黄色のちオリーブ黄色。孔口も同色で、傷時からし色に変色。柄は下方にふくらむ。傘よりやや淡色で、網目模様がある。担子胞子は長楕円形から紡錘形、平滑である。

## 2.分布

国外では台湾、北アメリカに、国内では北海道、本州中部に分布する。県内では東部、中部に分布する。

## 3.生育環境

県内では亜高山帯針葉樹林で、コメツガなどと菌根共生して生育する。他の微生物との競争を避けるために、微生物の少ない褐色腐朽を受け、コケに覆われたコメツガなどの切株、倒木上に子実体を発生させることが多い。

## 4.生育状況

県内の亜高山帯針葉樹林内に比較的広く分布するが、子実体の発生は少ない。他の微生物との競争に弱く、生育場所が限られると考えられる。

## 5.減少の主要因と脅威

天然林伐採による宿主樹木の減少、生育環境の悪化が挙げられる(11)。

## 6.保護対策

現在の生育環境を保全する必要がある。生育地林内の針葉樹の腐朽倒木、切株などの撤去を控える必要がある。

## 7.特記事項

生育のためには、コメツガなどの宿主樹木が生育していることのほかに、褐色腐朽菌によって腐朽されコケに覆われた腐朽木があることも必要と考えられる。

## 8.主な文献

今関六也・本郷次雄 編(1987)原色日本新菌類図鑑( )。保育社、大阪、325 pp.

今関六也・本郷次雄 監修,小川 眞 編(1987)マイフルール・シリーズ 見る・採る・食べるきのこカラー図鑑。講談社、東京、254 pp

今関六也・大谷吉雄・本郷次雄 編(2011)山溪カラー名鑑 増補改訂新版 日本のきのこ。山と溪谷社、東京、648 pp.

勝本 謙(2010)日本産菌類集覧。日本菌学会関東支部、船橋、1177 pp.

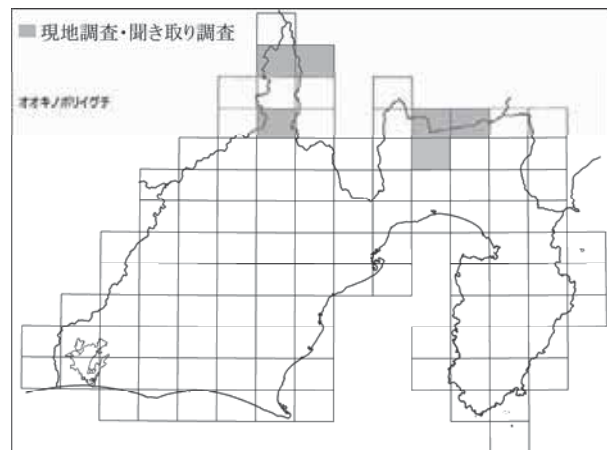
武藤治彦(2007)静岡木の子の会探索会で採集されたきのこ 静岡県内(1990~2006)。静岡木の子の会会報,(7): 14 25

## 9.標本

富士宮市産、静岡市産:ふじのくに地球環境史ミュージアム



©2020 H. Kishizawa  
富士宮市 2011年9月19日 岸澤広晶



(池ヶ谷のり子)



1.種の解説

外生菌根菌。子実体は夏から秋に、ブナ科樹林内地上に発生。全体が鮮やかな橙色を帯び、傷つくと速やかに青変する。傘は径4~8 cm、まんじゅう形のち平たい丸山形、表面はやや綿毛状またはほぼ平滑。子実層托は管孔で、上生し、長さ2.5~7 cm。孔口は小さく、管孔より濃色。柄は長さ5~7 cm、太さ13~17 mm、表面は無毛平滑、中実。担子孢子は類紡錘形である。

2.分布

国内では本州(中部以西)に分布する。県内では中部、西部、伊豆に分布する。

3.生育環境

暖温帯のコナラ、シイ、カシなどの広葉樹林で菌根共生して生育する。

4.生育状況

県内で現在発生が確認されているのは、西部の丘陵地帯が主である。しかし子実体の発生場所、発生量は、西部においても近年減少している。

5.減少の主要因と脅威

森林伐採及びスギ・ヒノキの植林化により、外生菌根を形成する宿主樹木のブナ科の広葉樹林が減少(11)して、生育環境が維持されなくなっている。

6.保護対策

里山のブナ科広葉樹林の保全が必要である。

7.特記事項

特になし。

8.主な文献

池田良幸(2013)新版 北陸のきのこ図鑑. 橋本確文堂, 金沢, 396 pp.

今関六也・本郷次雄 編(1989)原色日本新菌類図鑑( ). 保育社, 大阪, 402 pp.

今関六也・大谷吉雄・本郷次雄 編(2011)山溪カラー一名鑑 増補改訂新版 日本のきのこ. 山と溪谷社, 東京, 648 pp.

勝本 謙(2010)日本産菌類集覧. 日本菌学会関東支部, 船橋, 1177 pp.

武藤治彦(2007)静岡木の子の会探索会で採集されたきのこ 静岡県内(1990~2006). 静岡木の子の会会報, (7): 14-25

武藤治彦(2010)静岡木の子の会の探索会における採集リスト(2007~2009). 静岡木の子の会会報, (8): 9-28

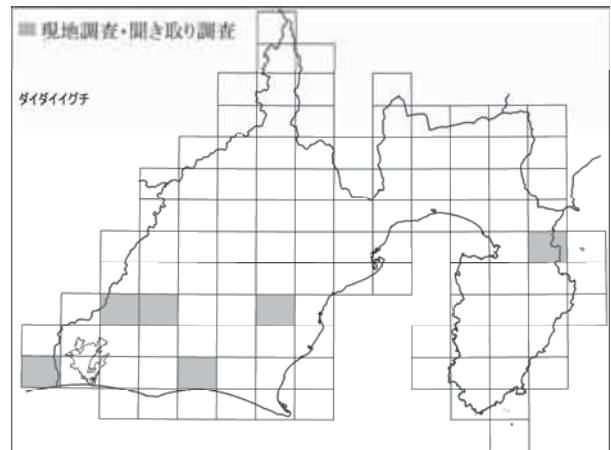
武藤治彦(2013)静岡木の子の会探索会における採集リスト(2010~2012). 静岡木の子の会会報, (9): 10-30

9.標本

磐田市産、浜松市産、湖西市産: ふじのくに地球環境史ミュージアム



©2020 H.Kishizawa  
浜松市 2013年9月21日 岸澤広晶



(岸澤広晶)

### 1.種の解説

外生菌根菌。子実体は夏から秋に、ブナ科樹種下に発生。傘は開くと平たいまんじゅう形となる。表面はオリーブ色から淡帯褐灰色。子実層托は管孔で、淡黄色のちオリーブ色を帯びる。孔口は赤色。ともに傷時緑青色に変色する。柄は基部でふくらみ、こん棒状。淡いピンク色のち下部は灰オリーブ色となる。頂部に紅色の細かい網目模様がある。肉はほぼ白色で傷時わずかに青変。担子孢子は紡錘形である。

### 2.分布

日本固有種で、本州、九州に分布する。県内では東部、中部、西部、伊豆に分布する。

### 3.生育環境

県内では、里山のシイ・カシ林、コナラ林、アカマツ・コナラ林で、これらのブナ科樹種と菌根共生して生育する。

### 4.生育状況

県内各地域で子実体の発生が認められるが、各地域内の発生場所は限られ、発生量も少ない。

### 5.減少の主要因と脅威

里山でスギ、ヒノキ植林化などのために雑木林が伐採される(11)ことによる宿主樹木の減少及び生育環境の悪化が主要因と考えられる。

### 6.保護対策

里山のまとまった広葉樹林を残し、維持管理していく必要がある。

### 7.特記事項

特になし。

### 8.主な文献

細矢 剛・埋橋志穂美・保坂健太郎・工藤伸一 (2016) 日本産固有菌類目録の作成に向けて 生物多様性データベースを利用した日本固有のきのこリスト作成の試み. 日菌報, (57): 77-84

池田良幸 (2013) 新版 北陸のきのこ図鑑. 橋本確文堂, 金沢, 396 pp.

今関六也・本郷次雄 編 (1989) 原色日本新菌類図鑑 ( ). 保育社, 大阪, 402 pp.

勝本 謙 (2010) 日本産菌類集覧. 日本菌学会関東支部, 船橋, 1177 pp.

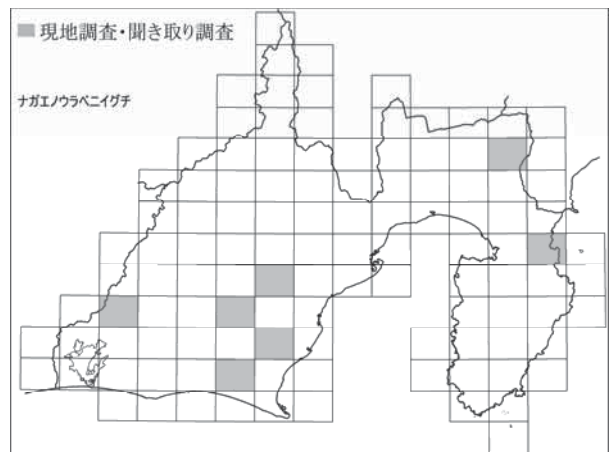
幼菌の会 編 (2001) カラー版きのこ図鑑. 家の光協会, 335 pp.

### 9.標本

御殿場市産、藤枝市産、島田市産、浜松市産、伊豆の国市産：ふじのくに地球環境史ミュージアム



伊豆の国市 2015年9月4日 小倉辰彦



(小倉辰彦)

# キンチャマイグチ *Leccinum versipelle* (Fr.) Snell 1944

イグチ科 Boletaceae

[静岡県カテゴリー 要注目種(N- 部会注目種)] [環境省カテゴリー なし]

## 1.種の解説

外生菌根菌。子実体は夏から秋に、カバノキ属林内の地上に散生。傘はまんじゅう形のち平たい丸山形、径4~20 cm、縁部は膜状となり管孔部から突出、表面は帯褐橙黄色。子実層托は管孔状で汚白色から帯灰色。柄は下方に向かって太くなり、長さ5~20 cm、表面にはほぼ黒色の細鱗片が多数ある。肉は白色、切断すると淡ワイン色のち黒色となる。胞子紋は褐色。担子胞子は長紡錘形である。

## 2.分布

北半球の中北部に分布する。国内では本州中部以北に、県内では東部、中部に分布する。

## 3.生育環境

県内では亜高山帯のダケカンバ樹下で菌根共生して生育している。

## 4.生育状況

中部の本菌の生育に適したダケカンバ林の林床では子実体の発生を確認できるが、そのような良好なダケカンバ林は多くはない。富士山では限られる。

## 5.減少の主要因と脅威

現在、同じくダケカンバ林に生育するヤマイグチは富士山でふつうに発生するが、本種の発生確認はごく少なく、宿主の有無だけでなく、生育に適した良好な林が減少傾向にあると考えられる。引き続き調査が必要である(99)。

## 6.保護対策

現生育地の自然環境を保持する必要がある。

## 7.特記事項

特になし。

## 8.主な文献

池田良幸(2013) 新版 北陸のきのこ図鑑. 橋本確文堂, 金沢, 396 pp.

今関六也・本郷次雄 編(1989) 原色日本新菌類図鑑( ) . 保育社, 大阪, 402 pp .

今関六也・大谷吉雄・本郷次雄 編(2011) 山溪カラー名鑑 増補改訂新版 日本のきのこ . 山と溪谷社, 東京, 648 pp .

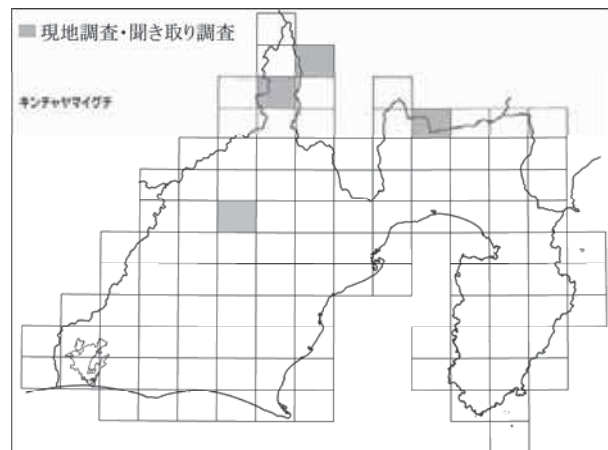
勝本 謙(2010) 日本産菌類集覧 . 日本菌学会関東支部, 船橋, 1177 pp .

## 9.標本

静岡市産: ふじのくに地球環境史ミュージアム



静岡市 2016年9月18日 岸澤広晶



(岸澤広晶)

## アオゾメクロツブタケ *Rossbeevera eucyanea* Orihara 2012

(=イロガワリクロツブタケ)

イグチ科 Boletaceae

[静岡県カテゴリー 要注目種(N- 部会注目種)] [環境省カテゴリー なし]

### 1.種の解説

外生菌根菌。子実体は春から秋に、スダジイ樹下半地中に発生する。子実体は類球形で径3 cm以下。外皮はフェルト状で白色。グレバは迷路状に孔のあいた小腔室がある。茶褐色で、切断時速やかに青変する。無性基部があり、柄の名残がある。担子胞子は楕円形で、表面縦方向に4本の肋があり、茶褐色である。*Chamonixia mucosa* (= *Rossbeevera mucosa*) とされていたが、現在では別種と考えられている。

### 2.分布

国内では本州(静岡県、三重県、広島県)、九州(大分県、宮崎県、鹿児島県)に分布する。県内では西部で確認した。

### 3.生育環境

県内では暖温帯広葉樹林内のスダジイ樹下の切通しで、子実体の発生を確認した。温暖な気候下、比較的湿度がえられる里山の痩せた土で、スダジイと菌根共生して生育していると考えられる。

### 4.生育状況

県内の生育確認場所は現在一ヶ所で、子実体の発生も少ない。

### 5.減少の主要因と脅威

遷移の進行・植生の変化(54)による生育適地の減少が考えられるが、調査不足である。

### 6.保護対策

現在の生育地の自然環境を保持する必要がある。

### 7.特記事項

特になし。

### 8.主な文献

保坂健太郎(2017)小学館の図鑑・ネオきのこ。小学館, 東京, 159 pp.

佐々木廣海・木下晃彦・奈良一秀(2016)地下生菌識別図鑑。誠文堂新光社, 東京, 143 pp.

### 9.標本

湖西市産: ふじのくに地球環境史ミュージアム



湖西市 2013年7月6日 池ヶ谷のり子



(池ヶ谷のり子)

1.種の解説

外生菌根菌。子実体は初夏から夏に、常緑広葉樹林内の地上に発生。傘は中型から大型で、表面は暗紫褐色から帯紫黒色、フェルト状で、乾燥すると細かくひび割れる。子実層托は管孔で、柄に直生し、淡灰白色から淡小豆色となる。柄は上下同大または下方にふくらむ。管孔と同色で、明瞭な黒い二重の網目模様をもつ。肉は灰白色で、切断面は赤色から紫色を経て黒に変色する。猛毒成分を含む。担子胞子は類紡錘形である。

2.分布

国外の分布は不明で、国内では本州（愛知県、静岡県）で確認されている。県内では西部に分布する。

3.生育環境

県内では蛇紋岩土壌付近のスダジイ・アラカシ・コナラ林内で菌根共生して生育する。

4.生育状況

愛知県での生育地は限られ、子実体の発生も減少している。県内での発生確認は一ヶ所だけで、発生量は少ない。

5.減少の主要因と脅威

生育適地における宿主樹木伐採が考えられる(11)。

6.保護対策

まとまった低山の広葉樹林を残し、維持・管理して、生育地の自然環境を保持していく必要がある。

7.特記事項

特になし。

8.主な文献

保坂健太郎 (2017) 小学館の図鑑・ネオきのこ。小学館，東京，159 pp.

長沢栄史 監修 (2003) 日本の毒きのこ。学習研究社，東京，280 pp.

中條長昭・菊山功嗣 (2010) 愛知県に於ける高等菌類の絶滅種と危惧種の調査。名古屋産業大学・名古屋経営短期大学環境経営研究所年報，9: 70-82

9.標本

浜松市産：ふじのくに地球環境史ミュージアム



浜松市 2016年10月10日 池ヶ谷のり子



断面写真



(池ヶ谷のり子)

1.種の解説

外生菌根菌。子実体は春から秋に、広葉樹林内地中に発生。塊状、多くは球形で径2~7 cm。表面は赤褐色で弾力があり、多くの凹みがある。内部は胞子がつまった類球形の多数の小腔黄室があり、黒色。外部に続く直径1 mm程度の穴がある。担子胞子は広卵形から紡錘形、褐色である。*M. intermedius*とされていたが、現在では別種だと考えられている。アカダマタケ(*M. utriculatus*)は、内部から外部への穴は開いていない。

2.分布

国外の分布は不明で、国内では本州(静岡県、兵庫県、岡山県)、九州(大分県)で確認されている。県内では西部に分布する。

3.生育環境

県内では、里山のブナ科樹種(コナラ、シイ、アラカシなど)と菌根共生して生育している。

4.生育状況

現在、確認場所は一ヶ所である。本県における地下生菌の調査は未着手状態にあり、詳細は不明な部分が多い。

5.減少の主要因と脅威

里山の雑木林のスギ、ヒノキ植林化(11)、宅地化(23)により生育適地は減少している。

6.保護対策

生育地の林の自然環境を現状のまま維持・保全する必要がある。里山のまとまった広葉樹林を残し、維持・管理していく必要がある。

7.特記事項

特になし。

8.主な文献

佐々木廣海・木下晃彦・奈良一秀(2016)地下生菌識別図鑑。誠文堂新光社、東京、280 pp.

9.標本

浜松市産：ふじのくに地球環境史ミュージアム



浜松市 2013年7月13日 小倉辰彦



(小倉辰彦)

## ゴムショウロ *Rhizopogon* sp.

ショウロ科 Rhizopogonaceae

[静岡県カテゴリー 要注目種(N- 部会注目種)] [環境省カテゴリー なし]

### 1.種の解説

外生菌根菌。子実体は夏から秋に、マツ属樹下に発生。子実体は直径5 cm以下の類球形。白色で弾力がある。外皮は平滑で、表面の菌糸束が圧着するが、目立たない。グレバは迷路状に孔のあいた小腔室があり、淡褐色。担子胞子は楕円形で透明である。ショウロに似るが、本種の子実体は触ると徐々に褐変し、乾燥すると黒くなる。また軟骨質で和名のように弾力がある。

### 2.分布

国内では本州(静岡県、三重県、兵庫県)、九州(大分県、鹿児島県)、沖縄県で確認されている。県内では伊豆に分布する。

### 3.生育環境

県内では、暖温帯の落ち葉の堆積の少ないアカマツ樹下で菌根共生して生育している。

### 4.生育状況

子実体の発生確認場所が限られているが、現在のところ子実体の発生は続いている。

### 5.減少の主要因と脅威

マツ枯れによる宿主樹木の減少(71)、落ち葉の堆積による林床の富栄養化の可能性がある(53)。

### 6.保護対策

現在の生育地の自然環境を維持、管理していくことが必要である。

### 7.特記事項

引き続き調査の必要がある。

### 8.主な文献

佐々木廣海・木下晃彦・奈良一秀(2016)地下生菌識別図鑑。誠文堂新光社、東京、280 pp.

### 9.標本

伊豆の国市産：ふじのくに地球環境史ミュージアム



伊豆の国市 2015年6月6日 小倉辰彦



(池ヶ谷のり子)

## 1.種の解説

外生菌根菌。子実体は夏から秋に、林内地上に群生。子実体は高さ 10 cm 内外。不規則なじょうご形で、全体が白～クリーム色。子実層托は低いしわひだで、白色から胞子の成熟に伴ってクリーム色になる。柄は偏心生から側生、内部は充実する。担子胞子は紡錘形から円柱形で、表面を細いぼが縦方向に覆う。

## 2.分布

日本固有種で、北海道、本州、四国に分布する。県内では東部、西部、伊豆で確認している。

## 3.生育環境

県内では、暖温帯のシイ・カシ林、アカマツ・コナラ林から冷温帯のブナ林にかけて生育している。落葉の堆積の少ない痩せ地のブナ科広葉樹林に生育していると考えられる。

## 4.生育状況

全体が白色のアンズタケ形で確認しやすいが、過去の確認記録がなく、確認場所は限られる。生育適地では、フェアリーリングを描いて子実体の発生が見られる。

## 5.減少の主要因と脅威

植林化による雑木林の伐採(11)、遷移の進行・植生変化の影響(54)により、生育環境が悪化したと考えられる。

## 6.保護対策

現在の生育地の雑木林を残し、自然環境の保全をする必要がある。

## 7.特記事項

特になし。

## 8.主な文献

細矢 剛・埋橋志穂美・保坂健太郎・工藤伸一(2016)日本産固有菌類目録の作成に向けて生物多様性データベースを利用した日本固有のきのこリスト作成の試み．日菌報，(57)：77-84

池田良幸(2013)新版 北陸のきのこ図鑑．橋本確文堂，金沢，396 pp.

今関六也・大谷吉雄・本郷次雄 編(2011)山溪カラー名鑑 増補改訂新版 日本のきのこ．山と溪谷社，東京，648 pp.

今関六也・本郷次雄 編(1989)原色日本新菌類図鑑( )．保育社，東京，402 pp.

伊藤誠哉(1954)日本菌類誌 第二巻・第四号．養賢堂，東京，450 pp.

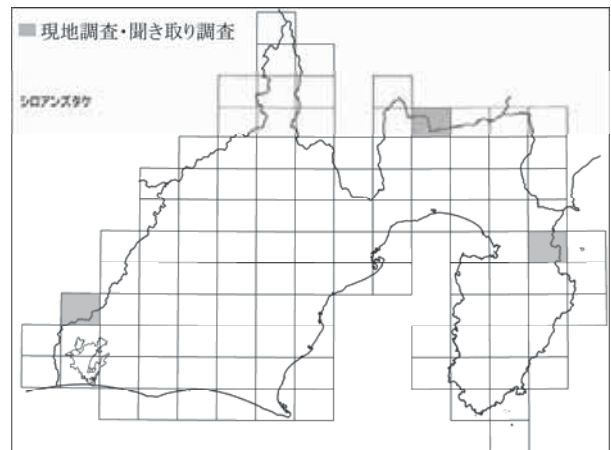
勝本 謙(2010)日本産菌類集覧．日本菌学会関東支部，東京，1177 pp.

## 9.標本

伊豆の国市産、富士宮市産、浜松市産：ふじのくに地球環境史ミュージアム



©2020 N. Ikegaya  
浜松市 2016年10月10日 池ヶ谷のり子



(池ヶ谷のり子)



### 1.種の解説

外生菌根菌。子実体は夏から秋に、モミ属などの針葉樹林及びその混生林内地上に発生。傘は径4~35 cm。中実の円柱形から、のち柄の根もとまで窪んで中空のラッパ形となる。表面は淡肌色の地に、黄褐色の大型のそり返った鱗片をもつ。子実層托は不規則な放射状から網目状のしわで、柄に長く垂生する。黄白色からきつね色で、傷時赤紫色に変色することがある。柄の根もととは白色。担子胞子はやや細長い楕円形である。

### 2.分布

国外では北アメリカ西部に、国内では北海道及び本州の山岳地帯に分布する。県内では東部、中部、西部に分布する。

### 3.生育環境

県内では冷温帯上部から亜高山帯で、モミ属などの樹木と菌根共生して生育している。

### 4.生育状況

暖温帯から亜高山帯のモミ属の林に生育するウスタケや、冷温帯から亜高山帯でモミ属、ツガ属の林に生育するフジウスタケに比較して、子実体の発生量、発生場所ともに少なく限られる。

### 5.減少の主要因と脅威

比較的湿度をえやすい河岸のモミ属の林の森林伐採による、宿主樹種の減少及び生育環境の悪化が考えられる(11)。

### 6.保護対策

現在の生育地の自然環境を保持する必要がある。

### 7.特記事項

特になし。

### 8.主な文献

本郷次雄 監修(2006)新装版山溪フィールドブックス7きのこ。山と溪谷社,東京,384 pp.

勝本 謙(2010)日本産菌類集覧。日本菌学会関東支部,船橋,1177 pp.

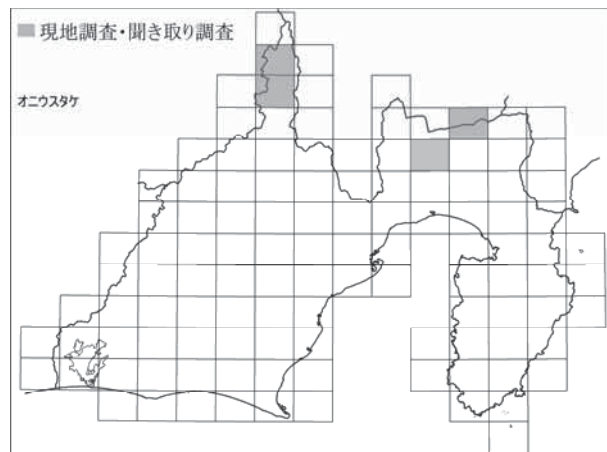
幼菌の会 編(2001)カラー版きのこ図鑑。家の光協会,東京,335 pp.

### 9.標本

富士宮市産、小山町産、静岡市産：ふじのくに地球環境史ミュージアム



静岡市 2014年8月18日 小倉辰彦



(池ヶ谷のり子)

1.種の解説

腐生菌。子実体は夏と秋に、林内や竹林内の肥沃な地上に発生。幼子実体は球形から卵形で、白色から淡褐色、径2 cmほど。成熟すると赤紅色の腕を14~23本直立させて柄を伸ばし、高さ5~10 cmとなる。腕は放射状水平に広がる。グレバは柄の上部の皿上部に生じて、黒褐色、粘液化して悪臭がある。担子胞子は長楕円形、無色である。

2.分布

亜熱帯から熱帯に主に分布する。国外ではアフリカ、東アジア、オーストラリア、ニュージーランド、北アメリカ南部、南アメリカに、国内では本州(東海地方以西)、四国、九州に分布する。県内では中部、西部、伊豆で確認している。

3.生育環境

県内では暖温帯広葉樹林や竹林内の多湿で、落葉などの堆積の多い林床で植物遺体を分解して生育している。

4.生育状況

伊豆、中部、西部の数ヶ所で、子実体の発生が確認されている。子実体は展開後早くに崩れ、確認回数は多くない。

5.減少の主要因と脅威

温暖な丘陵地の多湿な広葉樹林内という生育環境が、森林伐採(11)、宅地開発(23)などにより減少している。

6.保護対策

生育地の生育環境に手を加えないよう、現状の保持が必要である。

7.特記事項

特になし。

8.主な文献

今関六也・本郷次雄 編(1989)原色日本新菌類図鑑( )。保育社,大阪,402 pp.

今関六也・大谷吉雄・本郷次雄 編(2011)山溪カラー名鑑 増補改訂新版 日本のきのこ。山と溪谷社,東京,648 pp.

伊藤誠哉(1959)日本菌類誌 第2巻・第5号。養賢堂,東京,658 pp.

勝本 謙(2010)日本産菌類集覧。日本菌学会関東支部,船橋,1177 pp.

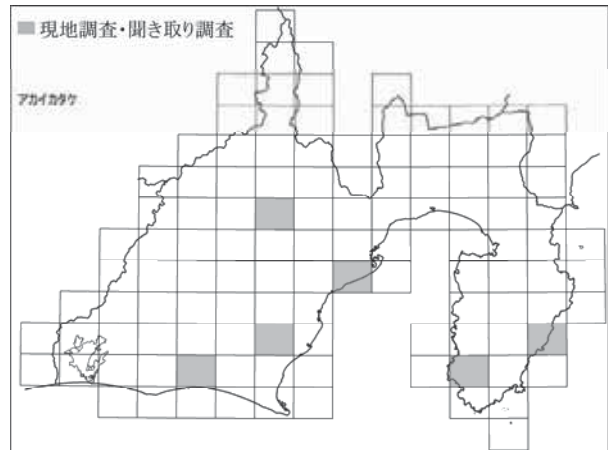
武藤治彦(2007)静岡木の子の会探索会で採集されたきのこ 静岡県内(1990~2006)。静岡木の子の会会報,(7):14-25

9.標本

静岡市産:ふじのくに地球環境史ミュージアム



©2020 T.Ogura  
牧之原市 2016年6月27日 小倉辰彦



(池ヶ谷のり子)

# ムカシオオミダレタケ *Elmerina holophaea* (Pat.) Parmasto 1984

キクラゲ目所属科未確定

[静岡県カテゴリー 要注目種(N- 部会注目種)] [環境省カテゴリー なし]

## 1.種の解説

腐生菌。子実体は夏から秋に、ブナなどの腐朽木上に発生。サルノコシカケ型。側着生で無柄。傘の表面は羽毛状に分枝した毛に覆われる。子実層托は放射状から迷路状のひだになっている。ややゼラチン質の肉質をもつが、乾燥時は著しく収縮してかたくなる。担子胞子は卵形、平滑。子実体の形は多孔菌に類似するが、キクラゲ目に属する。

## 2.分布

日本各地のブナ林に分布する。県内では東部、中部、西部に分布する。

## 3.生育環境

冷温帯で、比較的湿度がえられる腐朽したブナなどの倒木、立枯木に生育する。

## 4.生育状況

県内のブナ林は伐採などで減少傾向にあり、林内にブナなどの大木の倒木、立枯木は少ない。生育に適した腐朽木の減少により、子実体の発生は減少している。

## 5.減少の主要因と脅威

森林伐採によるブナ林の減少(11)及び林内のブナ倒木の撤去(71)が挙げられる。

## 6.保護対策

現在の生育環境を保全するとともに、林内のブナ倒木を撤去しないことが必要である。

## 7.特記事項

特になし。

## 8.主な文献

池田良幸(2013)新版 北陸のきのこ図鑑。橋本確文堂、金沢、396 pp.

今関六也・大谷吉雄・本郷次雄 編(2011)山溪カラー名鑑 増補改訂新版 日本のきのこ。山と溪谷社、東京、648 pp.

今関六也・本郷次雄 編(1989)原色日本新菌類図鑑( )。保育社、大阪、402 pp.

勝本 謙(2010)日本産菌類集覧。日本菌学会関東支部、東京、1177 pp.

工藤伸一(2017)青森県産きのこ図鑑。アクセス二十一世紀出版、青森、535 pp.

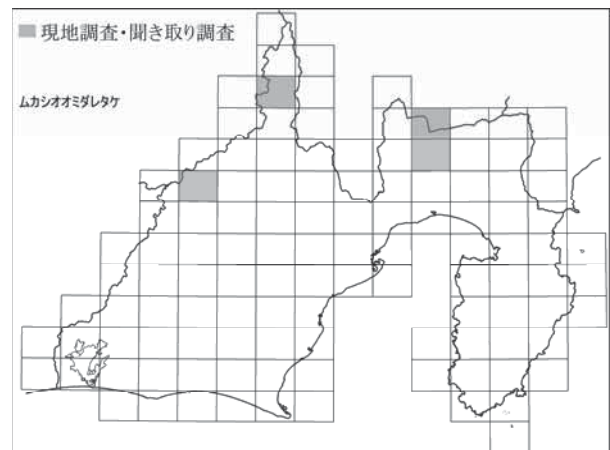
武藤治彦(2007)静岡木の子の会探索会で採集されたきのこ 静岡県内(1990~2006)。静岡木の子の会会報、(7): 14-25

## 9.標本

富士宮市産、浜松市産：ふじのくに地球環境史ミュージアム



浜松市 2014年7月21日 池ヶ谷のり子



(池ヶ谷のり子)

# ヤケコゲタケ *Inonotus hispidus* (Bull.) P. Karst. 1879

タバコウロコタケ科 Hymenochaetaceae

[ 静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) ] [ 環境省カテゴリー なし ]

## 1.種の解説

腐生菌。子実体は主にミズナラ類の生立木に発生。1年生。傘は半円形。無柄で幹に側着。断面は毛被層、肉層、管孔層からなる。初め毛被層は10 mm以上の厚みがあるが、しだいに脱落する。生育時肉層はさび褐色から赤褐色、柔軟で多量の水分を含むが、老化し乾くと焼け焦げたように黒く軽く脆くなる。管孔も肉と同色の变化。孔口は2~3個/mm。傷時褐変。担子胞子は楕円形から広楕円形、黒褐色である。

## 2.分布

国内を含めて北半球冷温帯以北に分布する。県内では中部に分布する。

## 3.生育環境

県内では冷温帯で、ミズナラ大木の生立木樹幹に子実体を発生させていた。幹の傷などから侵入して生立木の辺材部を白色腐朽する。

## 4.生育状況

県内での確認は稀である。ミズナラの樹幹に発生したものが確認されたが、生立木の上部の枝などに子実体を発生させることもあり、この場合確認しにくい。子実体は1年生で、乾燥して炭化したように黒くなった子実体が林床に落下していることがある。

## 5.減少の主要因と脅威

森林伐採(11)によるブナ・ミズナラ林の減少、特に生育に適するミズナラの大木の減少が主要因と考えられる。

## 6.保護対策

ブナ・ミズナラ林の保全が必要である。

## 7.特記事項

特になし。

## 8.主な文献

今関六也・本郷次雄 編(1989)原色日本新菌類図鑑( )。保育社、大阪、402 pp.

今関六也・大谷吉雄・本郷次雄 編(2011)山溪カラ一名鑑 増補改訂新版 日本のきのこ。山と溪谷社、東京、648 pp.

伊藤誠哉(1955)日本菌類誌 第2巻・第4号。養賢堂、東京、450 pp.

勝本 謙(2010)日本産菌類集覧。日本菌学会関東支部、東京、1177 pp.

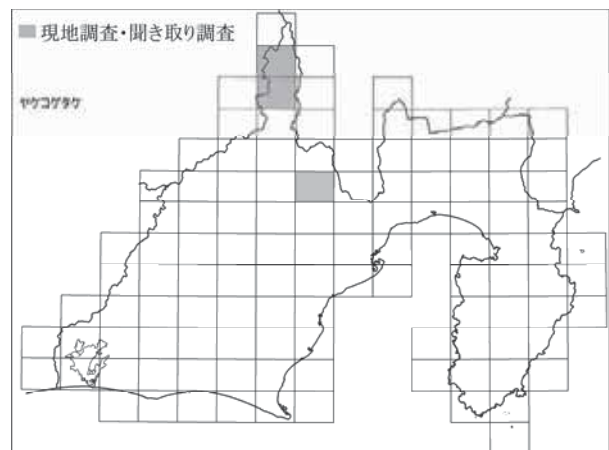
城川四郎(2017)検証キノコ新図鑑。筑波書房、東京、250 pp.

## 9.標本

静岡市産：ふじのくに地球環境史ミュージアム



静岡市 2016年9月11日 小倉辰彦  
(下:生育初期の傘表面)



(小倉辰彦)

# カバノアナタケ *Inonotus obliquus* (Ach. ex Pers.) Pilat 1942

タバコウロコタケ科 Hymenochaetaceae

[ 静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) ] [ 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) ]

## 1.種の解説

腐生菌。カバノキ属の生立木の幹上に菌核を形成する。菌核は径 10~20 cm、表面は黒色で石炭状。内部は黄褐色で木質。子実体は背着性で、樹皮下に広がる。子実層托は管孔で、孔口は茶褐色、微細。担子胞子は短楕円形。子実体の発生は稀である。

## 2.分布

日本を含めて北半球に分布する。県内では東部、中部、西部に分布する。

## 3.生育環境

県内では、亜高山帯のダケカンバ生立木の幹を白色腐朽して、菌核を形成している。

## 4.生育状況

富士山のダケカンバ林では、比較的ふつうに菌核の発生があった(植松元春氏私信)が、近年は減少している。

## 5.減少の主要因と脅威

近年菌核が民間薬として採取されている(42)。亜高山帯まで入りやすい富士山では採取されやすい。菌核は、菌糸が密集して塊状となり、一時休眠状態になった耐久器官であるため、菌核の採取圧が高くなると減少の主要因となる可能性が高い。

## 6.保護対策

菌核の採取制限が必要である。

## 7.特記事項

特になし。

## 8.主な文献

今関六也・大谷吉雄・本郷次雄 編(2011)山溪カラー名鑑 増補改訂新版 日本のきのこ。山と溪谷社, 東京, 648 pp.

伊藤誠哉(1955)日本菌類誌 第2巻・第4号。養賢堂, 東京, 450 pp.

勝本 謙(2010)日本産菌類集覧。日本菌学会関東支部, 東京, 1177 pp.

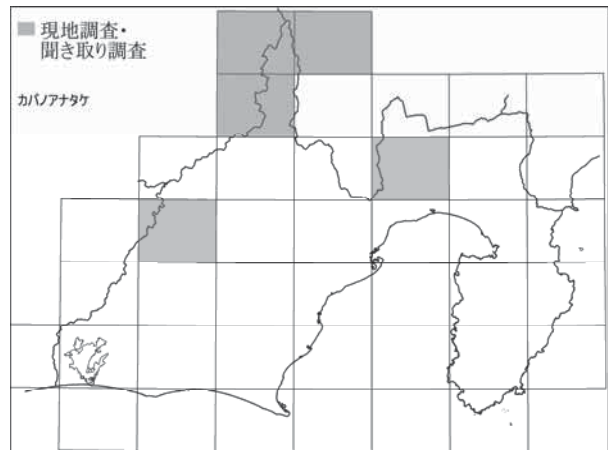
工藤伸一(2017)青森県産きのこ図鑑。アクセス二十一出版, 青森, 535 pp.

## 9.標本

静岡県産: ふじのくに地球環境史ミュージアム



©2020 N.Ikegaya  
静岡市 2016年8月21日 池ヶ谷のり子



(池ヶ谷のり子)

# エブリコ *Fomitopsis officinalis* (Vill.) Bondartsev & Singer 1941

ツガサルノコシカケ科 Fomitopsidaceae

[静岡県カテゴリー 要注目種(N- 部会注目種)] [環境省カテゴリー なし]

## 1. 種の解説

腐生菌。子実体は、カラマツなどの老木の幹に発生。蹄形または鐘形。無柄。多年生の木質で堅く、傘の上面は汚灰褐色で成長とともに不規則なひび割れができ、やや不明瞭な環紋を表すことが多い。子実層托は細かい管孔で、多層。クリーム色のち褐色を帯びる。孔口は3~4個/mm。肉は白色から黄白色、もろくカッターチーズ様で苦味がある。担子孢子は楕円形である。

## 2. 分布

国外ではサハリン、千島列島、シベリア、中国東北部、北ヨーロッパ、北アメリカなど北半球冷温帯以北に広く分布し、国内では北海道、本州の亜高山帯に分布する。県内では東部で確認している。

## 3. 生育環境

寒冷な環境を好む北方系の種類で、県内では富士山の標高2,400m付近の亜高山帯で、天然林の特にカラマツ、またはトウヒ類などの老木の心材部を褐色腐朽して、生立木及び枯死木から子実体を発生させる。

## 4. 生育状況

全国的に稀な種である。亜高山帯上部の天然林のカラマツ老木などという生育環境は県内でも限られる。

## 5. 減少の主要因と脅威

現在の生育地の環境は安定しているが、天然林のカラマツなどの巨樹は森林伐採で減少しており(11)、生育場所は多くない。

## 6. 保護対策

現在の生育環境を保全することが必要である。

## 7. 特記事項

エブリコはアイヌ語で「薬用」の意味で、下剤や制汗薬として用いられたが、有毒という。

## 8. 主な文献

今関六也・本郷次雄 編(1989)原色日本新菌類図鑑( )。保育社,大阪,402 pp.

伊藤誠哉(1955)日本菌類誌 第2巻・第4号。養賢堂,東京,450 pp.

勝本 謙(2010)日本産菌類集覧。日本菌学会関東支部,船橋,1177 pp.

長澤栄史 監修(2003)日本の毒きのこ。学習研究社,東京,280 pp.

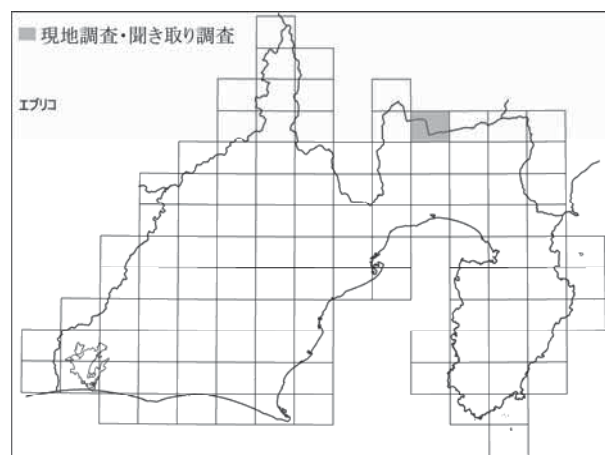
城川四郎(2017)検証キノコ新図鑑。筑波書房,東京,250 pp.

## 9. 標本

富士宮市産：ふじのくに地球環境史ミュージアム



©2020 T.Ogura  
富士宮市 2013年9月27日 小倉辰彦



(小倉辰彦)

ツガマイタケ *Osteina obducta* (Berk.) Donk 1966

ツガサルノコシカケ科 Fomitopsidaceae

[ 静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) ] [ 環境省カテゴリー 情報不足 (DD) ]

1.種の解説

腐生菌。子実体は夏に、コメツガ、カラマツなどの針葉樹の生立木の地際、枯死木上に発生。共通の基部からへら形の傘を数枚張り出す。傘表面は黄白色で平滑。子実層托は管孔で、白色。孔口は3~4個/mm。柄は側生。傘肉は白色で多湿柔軟だが、乾燥すると硬くなる。担子孢子は楕円形である。

2.分布

国内では中部地方の山岳地帯に、県内では東部、中部に分布する。

3.生育環境

県内では亜高山帯で、コメツガ、カラマツの主に生立木の地際で子実体の発生を確認している。針葉樹を褐色腐朽して生育する。

4.生育状況

天然林で生育が確認されており、富士山では多くはないが、広く分布している。

5.減少の主要因と脅威

森林伐採による亜高山帯の天然林の減少が考えられる(11)。

6.保護対策

生育地の自然環境を保持する必要がある。

7.特記事項

特になし。

8.主な文献

Aoshima K. & H. Furukawa (1963) A note on *Grifola obducta* (Berk.) Aoshima et Furukawa, comb. nov. *Trans. Mycol. Soc. Japan*, 4: 91-93

本郷次雄・上田俊穂(2006)新装版 山溪フィールドブックス7きのこ。山と溪谷社,東京,384 pp.  
今関六也・大谷吉雄・本郷次雄 編(2011)山溪カラー名鑑 増補改訂新版 日本のきのこ。山と溪谷社,東京,648 pp.

勝本 謙(2010)日本産菌類集覧。日本菌学会関東支部,船橋,1177 pp.

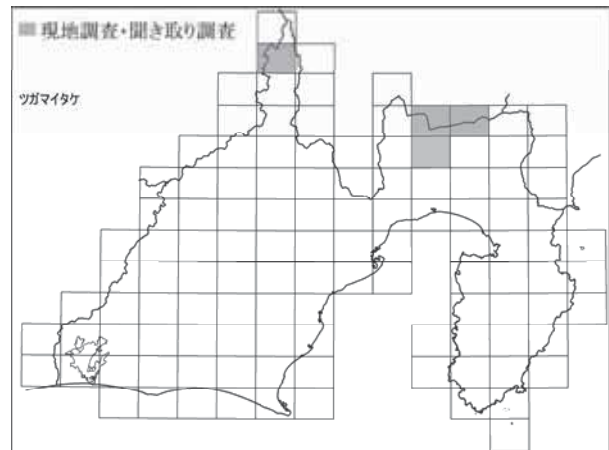
城川四郎(1996)猿の腰掛類きのこ図鑑。地球社,東京,207 pp.

9.標本

小山町産、富士市産、富士宮市産、静岡市産：ふじのくに地球環境史ミュージアム



©2020 H.Kishizawa  
小山町 2012年8月5日 岸澤広晶



(池ヶ谷のり子)

1.種の解説

腐生菌。子実体は主にブナの生立木、枯死木上に発生。傘は幅 15 cm 以下、半円形から舌形で、無柄。表面には不規則なしわと粒状突起があって粗荒。灰白色から茶褐色となる。子実層托は管孔で、孔口は 4 個/mm ほど、ほぼ白色のち汚褐色となる。肉は類白色、放射状に貫通する菌糸束がある。生時は肉質だが、乾燥するときわめて硬くなる。担子胞子は二重膜のマンネンタケ型、大型である。

2.分布

日本固有種で、国内のブナ林に分布する。県内では伊豆、東部、中部に分布する。

3.生育環境

ブナの生立木、倒木を白色腐朽して生育する。

4.生育状況

県内のブナ林内で、比較的大径のブナに生育するが、多くはない。

5.減少の主要因と脅威

伐採によるブナ林の減少(11)がある。

6.保護対策

ブナの立ち枯れ木、倒木を撤去しないで、そのままにしておくことで生育場所がえられやすい。

7.特記事項

特になし。

8.主な文献

細矢 剛・埋橋志穂美・保坂健太郎・工藤伸一(2016) 日本産固有菌類目録の作成に向けて生物多様性データベースを利用した日本固有きのこリスト作成の試み. 日菌報, (57): 77-84

今関六也・大谷吉雄・本郷次雄 編(2011) 山溪カラー名鑑 増補改訂新版 日本のきのこ. 山と溪谷社, 東京, 648 pp.

今関六也・本郷次雄 編(1989) 原色日本新菌類図鑑( ). 保育社, 大阪, 402 pp.

伊藤誠哉(1955) 日本菌類誌 第2巻・第4号. 養賢堂, 東京, 450 pp.

勝本 謙(2010) 日本産菌類集覧. 日本菌学会関東支部, 船橋, 1177 pp.

工藤伸一(2017) 青森県産きのこ図鑑. アクセス二十一出版, 青森, 535 pp.

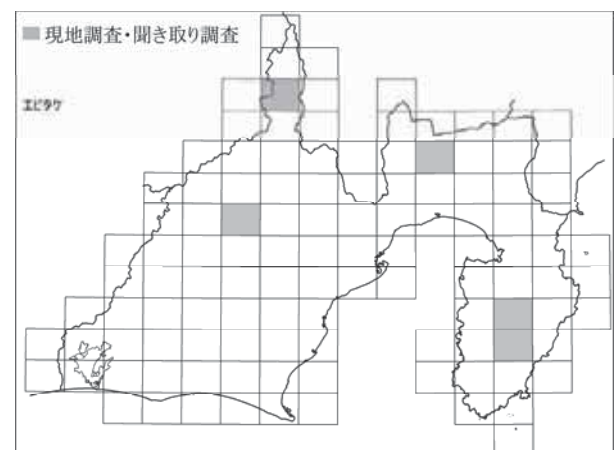
城川四郎(1996) 猿の腰掛類きのこ図鑑. 地球社, 東京, 207 pp.

9.標本

伊豆市産、川根本町産：ふじのくに地球環境史ミュージアム



伊豆市 2016年7月10日 池ヶ谷のり子



(池ヶ谷のり子)



### 1.種の解説

腐生菌。子実体はブナ林内地上に発生。革質の扇状で2~3個の子実体が癒合して不完全なじょうご状になることが多い。大きさは8 cm以下。表面は繊維状の線が放射状にはしり、縁辺部ではしわ状になる。濃紅~ピンク色で、濃淡により同心円状の帯をあらわす。乾くと淡黄褐色になる。子実層托は長さ1 mm以下の針状で、柄に垂生、表面と同色。柄は側生で表面は繊毛状。担子胞子は楕円形である。

### 2.分布

国外ではボルネオ、ジャワに、国内では本州に分布する。県内では東部に分布する。

### 3.生育環境

県内ではブナ・ミズナラ林の林床で子実体の発生を確認している。子実体は地上に発生するが、土壌中の枯死木を腐朽している。

### 4.生育状況

年ごとの気象状況などにより発生状況に変化があり、多い年と少ない年の差が大きい。全体として減少傾向にあり、発生は稀になっている。東部以外のブナ林では未確認である。

### 5.減少の主要因と脅威

植林化に伴うブナ・ミズナラ林の減少(11)が要因となる。入林が規制されている生育地では発生数が多いことから、人の踏みつけによる林床の生育環境の悪化(51)も減少要因の一つとして考えられる。シカ食害による下層植生の減少で林床が乾燥しやすくなっている(71)可能性もある。

### 6.保護対策

現在の生育環境を保持することが必要である。

### 7.特記事項

特になし。

### 8.主な文献

本郷次雄 監修(2006)新装版山溪フィールドブックス7きのこ。山と溪谷社, 384 pp.

今関六也・本郷次雄 編(1989)原色日本新菌類図鑑( )。保育社, 大阪, 402 pp.

勝本 謙(2010)日本産菌類集覧。日本菌学会関東支部, 東京, 1177 pp.

武藤治彦(2007)静岡木の子の会探索会で採集されたきのこ 静岡県内(1990~2006)。静岡木の子の会会報, (7): 14-25

武藤治彦(2010)静岡木の子の会の探索会における採集リスト(2007~2009)。静岡木の子の会会報, (8): 9-28

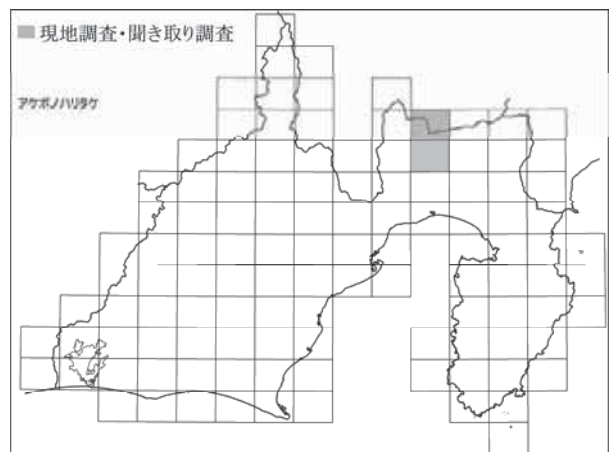
城川四郎(1996)猿の腰掛け類きのこ図鑑。地球社, 東京, 207 pp.

### 9.標本

富士宮市産:ふじのくに地球環境史ミュージアム



富士宮市 2015年8月21日 小倉辰彦



(小倉辰彦)

ツバマツオウジ (仮称) *Neolentinus lepideus* (Fr.) Redhead & Ginns 1985

タマチョレイタケ科 Polyporaceae

[静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種)] [環境省カテゴリー なし]

1.種の解説

腐生菌。子実体は初夏と初秋に、針葉樹の倒木や切り株に単生から群生。傘の表面は淡灰白色から淡黄灰白色で繊維状、淡褐色の圧着した鱗片に覆われ、粘性はない。ひだは垂生し、白色で、やや疎。縁は鋸歯状。柄は傘と同色で同様の鱗片に覆われ、膜質白色のつばがある。肉は強靱で松やに臭がある。担子孢子は円筒状から長楕円形である。針葉樹の枯死木に生育するつばのないもの(マツオウジ)とは別種とした。

2.分布

世界的に温帯以北に分布する。国内では主に冷温帯以北(富士山、八ヶ岳周辺、東北地方)に分布する。県内では東部で確認している。

3.生育環境

県内では亜高山帯針葉樹林で倒木や切り株を褐色腐朽して生育している。世界的にはカラマツ属、トウヒ属、マツ属などの針葉樹の枯死木に生育する。東北地方ではスギ、アカマツなどの枯死木に子実体が発生するという。

4.生育状況

東部の亜高山帯針葉樹林内における生育場所は、比較的湿度のえられやすい天然林内に限られ、子実体の発生は少ない。中部では現在未確認である。なお、つばのないマツオウジはアカマツなどの針葉樹倒木にふつうに生育している。

5.減少の主要因と脅威

中部の亜高山帯で未確認となっているのは、調査不足で不明である(99)。

6.保護対策

現在の生育環境を保持する必要がある。

7.特記事項

特になし。

8.主な文献

池田良幸(2013)新版 北陸のきのこ図鑑。橋本確文堂、金沢、396 pp.

工藤伸一(2017)青森県産きのこ図鑑。アクセス二十一出版、青森、535 pp.

長澤栄史(2000)マツオウジについて。菌蕈、(1): 36-38

城川四郎(2017)検証キノコ新図鑑。筑波書房、東京、250 pp.

9.標本

小山町産:ふじのくに地球環境史ミュージアム



©2020 T.Ogura  
小山町 2014年8月9日 小倉辰彦



(小倉辰彦)

サワフタギタケ *Perenniporia minutissima* (Yasuda) T. Hatt. & Ryv. 1994

タマチヨレイタケ科 Polyporaceae

[ 静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) ] [ 環境省カテゴリー なし ]

1.種の解説

腐生菌。子実体は夏から秋に、サワフタギ類の枯れ木または生木地際に発生。無柄から半背着生。傘は径4~10 cm、厚さ基部で2~5 cm、半円形、扇形、またそれらが重合する。表面は茶褐色から暗褐色、周辺部は類白色で、平滑または凹凸顕著な粗面。子実層托は管孔で、孔口ともに乳白色。肉は乳白色で、生時口ウ質で脆く、霜降り状に半透明な部分が散在する。担子胞子は楕円形、厚壁、一端が切型である。

2.分布

国外では中国、朝鮮半島に、国内ではサワフタギ類の分布する冷温帯落葉広葉樹林に広く分布する。県内では東部、中部、西部、伊豆で確認している。

3.生育環境

冷温帯で落葉広葉樹林のサワフタギ類の枯木、生木を白色腐朽して生育する。

4.生育状況

県内ではサワフタギ類(サワフタギ、タンナサワフタギ)は暖温帯の丘陵から冷温帯に分布するが、サワフタギタケの発生が見られるのは、冷温帯のサワフタギ類で、多くない。

5.減少の主要因と脅威

静岡県の人工林率は56%と高く、落葉広葉樹林の面積は多くない(11)。加えてシカ食害を受け、サワフタギ類の稚樹は減少している(52-1)。このため、サワフタギ類に特異的に生育する本種は、生育場所が減少している。

6.保護対策

落葉広葉樹林の保護とシカによる食害を防除し、サワフタギ類が生育できる環境を保護する必要がある。

7.特記事項

特になし。

8.主な文献

本郷次雄 監修(2006)新装版山溪フィールドブック ス7きのこ。山と溪谷社、東京、384 pp.

池田良幸(2013)新版 北陸のきのこ図鑑。橋本確文堂、金沢、396 pp.

勝本 謙(2010)日本産菌類集覧。日本菌学会関東支部、船橋、1177 pp.

武藤治彦(2007)静岡木の子の会探索会で採集されたきのこ 静岡県内(1990~2006)。静岡木の子の会会報,(7): 14-25

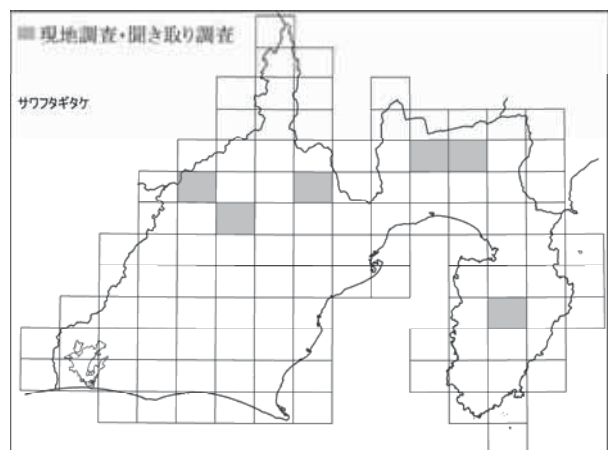
城川四郎(1996)猿の腰掛類きのこ図鑑。地球社、東京、207 pp.

9.標本

静岡市産、川根本町産、浜松市産、河津町産:ふじのくに地球環境史ミュージアム



川根本町 2014年9月23日 池ヶ谷のり子



(真橋祐次郎)

# ウサギタケ *Trametes trogii* Berk. 1850

タマチヨレイタケ科 Polyporaceae

[静岡県カテゴリー 要注目種(N- 部会注目種)] [環境省カテゴリー なし]

## 1.種の解説

腐生菌。子実体は夏から秋に、寒冷地の広葉樹（ヤナギ類、ドロノキなど）枯死木上に発生する。無柄から半背着生で、傘表面は灰黄色から灰褐色、剛毛に覆われる。傘肉は類白色、コルク質。管孔の長さは0.5～1 cmで、白色から灰黄色。孔口は2個/mmで円形から角形だが、みだれやすく迷路状になりやすい。担子胞子は円柱形である。

## 2.分布

北方系の菌で、日本を含めて北半球冷温帯以北に分布する。県内では中部で確認している。

## 3.生育環境

県内では冷温帯の河岸林でヤナギ類、ドロノキなどの広葉樹枯死木を白色腐朽して生育している。

## 4.生育状況

県内での確認は多くないが、生育適地のヤナギ類の倒木などには子実体の発生はよくみられる。

## 5.減少の主要因と脅威

冷温帯の河岸林のヤナギ類の伐採、倒木の撤去があげられる(71)。

## 6.保護対策

現在の生育環境に手を加えないよう、現状の保持が必要である。

## 7.特記事項

特になし。

## 8.主な文献

本郷次雄・上田俊穂(2006)新装版 山溪フィールドブックス7きのこ。山と溪谷社,東京,384 pp.

池田良幸(2013)新版 北陸のきのこ図鑑。橋本確文堂,金沢,396 pp.

今関六也・本郷次雄(1989)原色日本新菌類図鑑( )。保育社,大阪,315 pp.

伊藤誠哉(1955)日本菌類誌 第二巻・第四号。養賢堂,東京,450 pp.

勝本 謙(2010)日本菌類集覧。日本菌学会関東支部,船橋,1177 pp.

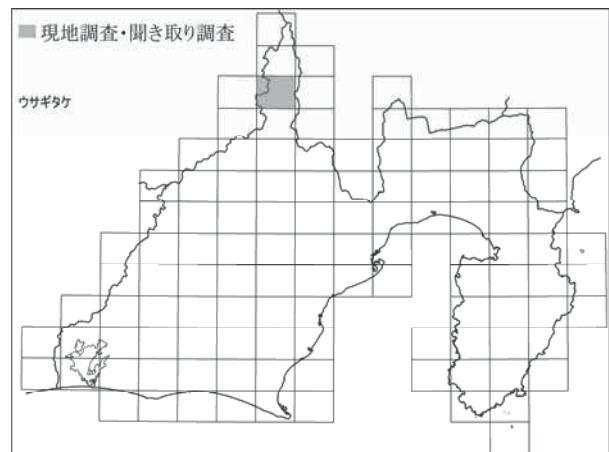
城川四郎(2017)検証キノコ新図鑑。筑波書房,東京,250 pp.

## 9.標本

静岡市産：ふじのくに地球環境史ミュージアム



静岡市 2018年8月5日 池ヶ谷のり子



(池ヶ谷のり子)

# ルリハツタケ *Lactarius subindigo* Verbeken & E. Horak 2000

ベニタケ科 Russulaceae

[静岡県カテゴリー 要注目種(N- 部会注目種)] [環境省カテゴリー なし]

## 1.種の解説

外生菌根菌。子実体は夏から秋、林内地上に発生。傘は径5~10 cm、中央が窪むまんじゅう形から浅いじょうご形。表面は湿時弱い粘性があり、藍青色で濃淡の環紋を表し、老成すると淡黄緑色となる。乳液は藍色で空気に触れると緑変する。ひだも藍青色で、傷つくと緑変する。柄は傘と同色。担子孢子は広楕円形、表面に粗い網目がある。

## 2.分布

国外ではパプアニューギニア、中国、インドに、国内では東北地方以南に分布する。県内では西部で確認している。

## 3.生育環境

里山のマツ林、コナラ林、シイ林などに生育する。

## 4.生育状況

宿主樹種の有無だけでなく、地質的要因が影響しているためか生育環境が限定されるようである。子実体発生場所が局地的で、子実体の発生量は少ない。

## 5.減少の主要因と脅威

生育適地の森林伐採、スギ・ヒノキの植林化(11)に伴い、生育環境が悪化している。

## 6.保護対策

生育地の林の状況と環境を現状のまま維持・保全する必要がある。

## 7.特記事項

これまで *L. indigo* と同定され、北米東部との共通分布種と考えられてきたが、近年の研究により日本産はニューギニアのシイ属やマテバシイ属の林に生育する、2000年に新たに記載された種と同種であるとされるようになった。

## 8.主な文献

今関六也・大谷吉雄・本郷次雄 編(2011)山溪カラー名鑑 増補改訂新版 日本のきのこ。山と溪谷社, 東京, 648 pp.

勝本 謙(2010)日本産菌類集覧。日本菌学会関東支部, 船橋, 1177 pp.

武藤治彦(2007)静岡木の子の会探索会で採集されたきのこ 静岡県内(1990~2006)。静岡木の子の会会報, (7): 14-25

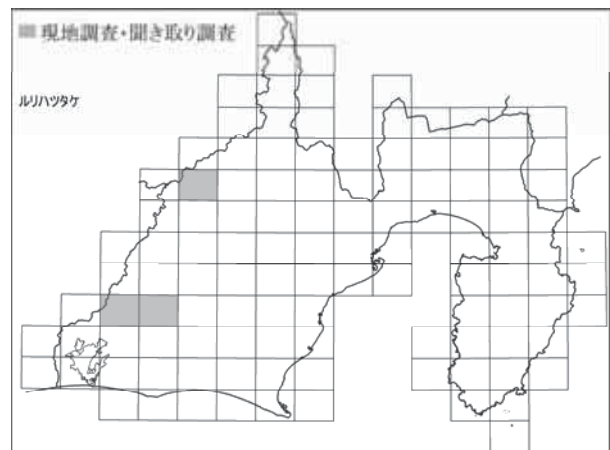
武藤治彦(2010)静岡木の子の会の探索会における採集リスト(2007~2009)。静岡木の子の会会報, (8): 9-28

## 9.標本

浜松市産: ふじのくに地球環境史ミュージアム



浜松市 2014年11月4日 河村正幸



(小倉辰彦)

アカアシボソチチタケ (仮称) *Lactarius* sp.

ベニタケ科 Russulaceae

[静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種)] [環境省カテゴリー なし]

1.種の解説

外生菌根菌。子実体は夏から秋に、ブナ・ミズナラ林内地上に発生。傘は径2~4 cm、中央突出のまんじゅう形からややじょうご形となる。表面は粘性なく橙黄色。ひだは垂生する。ひだ及び肉は淡橙黄色で、傷つくと白色不変色の乳液を滲出する。無味。柄は傘と同色で、濃色の条線がある。基部には橙黄色の細毛がみられる。担子胞子は類球形で刺状突起と細い不完全網目に覆われる。

2.分布

国内では本州に分布し、県内では東部、中部に分布する。

3.生育環境

冷温帯の河岸のブナ、ミズナラ林に生育しており、冷涼な多湿環境を好むと考えられる。これらの樹木と菌根共生して生育する。

4.生育状況

生育環境が適していれば子実体の発生は多い。入林が規制されている河岸のブナ・ミズナラ林内では子実体の発生は多い。

5.減少の主要因と脅威

森林伐採(11)によるブナ・ミズナラ林の減少がある。シカ食害(52-1)、人の踏みつけによる林床の乾燥化(51)の可能性もある。

6.保護対策

生育適地の自然環境を保持する必要がある。

7.特記事項

特になし。

8.主な文献

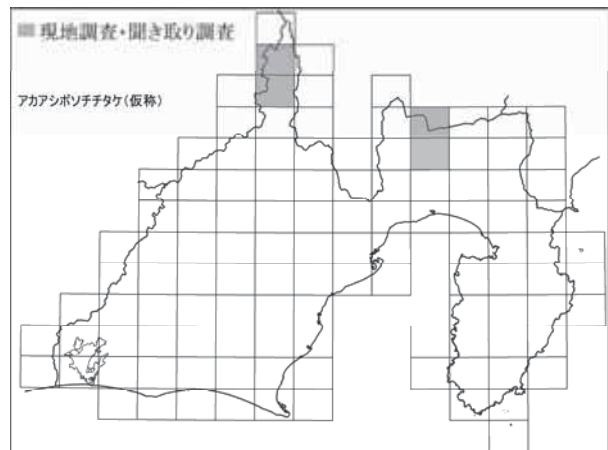
池田良幸(2013)新版 北陸のきのこ図鑑。橋本確文堂、金沢、396 pp.

9.標本

富士宮市産、静岡市産：ふじのくに地球環境史ミュージアム



富士宮市 2012年10月8日 小倉辰彦



(池ヶ谷のり子)

### 1.種の解説

外生菌根菌。子実体は夏から秋に、広葉樹林内地上に発生する。傘は小～中型。まんじゅう形から平らに開く。表面は黄褐色で、粘性はなく、あらいささくれ状。ひだは厚く、きわめて疎。傘とほぼ同色。柄はひだとほぼ同色で、中空。担子胞子は類球形で、刺状突起に覆われる。

### 2.分布

近年、日本新産種として記録された種であり、国内外の分布の詳細は不明。県内では東部、中部、伊豆に分布する。

### 3.生育環境

県内では、暖温帯から冷温帯の比較的湿度のえやすいブナ科の広葉樹林内で、菌根共生して生育している。

### 4.生育状況

ひだがきわめて疎で厚いという特徴のある子実体であるが、県内での発生確認は少ない。

### 5.減少の主要因と脅威

森林伐採による湿度をえやすい生育適地のブナ科広葉樹林の減少(11)が考えられる。

### 6.保護対策

現在の生育環境に手を加えないよう、現状の保持が必要である。

### 7.特記事項

特になし。

### 8.主な文献

本郷次雄 監修(2006)新装版山溪フィールドブック  
ス7きのこ。山と溪谷社、東京、384 pp.

勝本 謙(2010)日本産菌類集覧。日本菌学会関東支部、船橋、1177 pp.

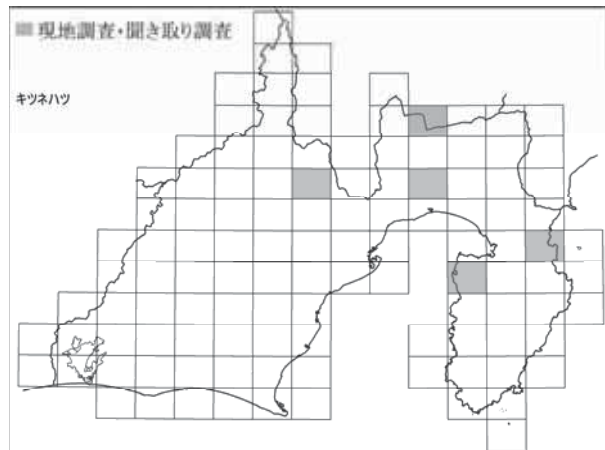
工藤伸一(2017)青森県産きのこ図鑑。アクセス二十一出版、青森、535 pp.

### 9.標本

沼津市産、富士宮市産、静岡市産、伊豆の国市産：ふじのくに地球環境史ミュージアム



©2020 T.Ogura  
富士市 2014年8月20日 小倉辰彦



(池ヶ谷のり子)